



中井町健康づくりプラン策定のための

アンケート調査報告書

【総合編】



平成 23 年 9 月 28 日

中井町 子育て健康課

中井町健康づくりプラン策定のためのアンケート調査報告書

【総合編】

目次

	頁		頁
1. 調査項目比較表	1	6. 集計結果「4.青壮年期編」	125
		6-1 単純集計結果	125
2. 調査結果の概要	5	6-2 属性別集計結果(性別・年齢階級別)	136
		6-3 クロス集計結果解説	155
3. 集計結果「1.乳幼児期編」	33		
3-1 単純集計結果	33	7. 集計結果「5.中年期編」	165
3-2 属性別集計結果(性別・年齢階級別)	41	7-1 単純集計結果	165
3-3 クロス集計結果解説	53	7-2 属性別集計結果(性別・年齢階級別)	177
		7-3 クロス集計結果解説	196
4. 集計結果「2.学童期編」	57		
4-1 単純集計結果	57	8. 集計結果「6.高齢期編」	207
4-2 属性別集計結果(性別・学年階級別)	66	8-1 単純集計結果	207
4-3 クロス集計結果解説	79	8-2 属性別集計結果(性別・年齢階級別)	218
		8-3 クロス集計結果解説	236
5. 集計結果「3.思春期編」	89		
5-1 単純集計結果	89		
5-2 属性別集計結果(属性別・性別)	98		
5-3 クロス集計結果解説	112		

1. 中井町健康づくりプラン策定のためのアンケート調査 調査項目比較

領域	No.	1.乳幼児	2.学童期	3.思春期	4.青壮年	5.中年期	6.高齢期
属性	1	回答者					
	2	回答者(記述)					
	3	問1 性別	問1-1 性別	問1-1 性別	問1-1 性別	問1-1 性別	問1-1 性別
	4	問2-1 年齢	問1-2 年齢	問1-2 年齢	問1-2 年齢	問1-2 年齢	問1-2 年齢
	5	問3 就園	問1-3 学年	問1-3 属性	問1-3 就業状況	問1-3 就業状況	問1-3 就業状況
	6	問4 同居者	問2 同居者	問2 同居者	問2 家族構成	問2 家族構成	問2 家族構成
健康 関心	7	問5 健康状態	問3 健康状態	問3 健康状態	問3 健康状態	問3 健康状態	問3 健康状態
	8	問6-1 発育状況					
	9		問4 身体健康	問4 身体健康	問4 身体健康	問4 身体健康	問4 身体健康
	10	問7 健康法	問5 健康法	問5 健康法	問5 健康法	問5 健康法	問5 健康法
	11				問6 疾病関心	問6 疾病関心	問6 疾病関心
	12	問8 メタボ	問7 メタボ	問7 メタボ	問7 メタボ	問7 メタボ	問7 メタボ
	13	問2-2 身長	問8-1 体型(身長)	問8-1 体型(身長)	問8-1 体型(身長)	問8-1 体型(身長)	問8-1 体型(身長)
	14	問2-3 体重	問8-2 体型(体重)	問8-2 体型(体重)	問8-2 体型(体重)	問8-2 体型(体重)	問8-2 体型(体重)
	15	問2-4 カウブ指数(BMI)	問8-3 体型(BMI)	問8-3 体型(BMI)	問8-3 体型(BMI)	問8-3 体型(BMI)	問8-3 体型(BMI)
	16		問9 体型希望	問9 体型希望	問9 体型希望	問9 体型希望	問9 体型希望
	17	問9-1 3~4か月健診					
	18	問9-2 7か月健診					
	19	問9-3 お誕生日前健診					
	20	問9-4 1歳6か月健診					
	21	問9-5 3歳児健診					
	22	問9-6 BCG					
	23	問9-7 ポリオ					
	24	問9-8 麻しん・風しん					
	25	問9-9 三種混合					
	26	問9-10 日本脳炎					
	27				問10-1 健診受診状況	問10-1 健診受診状況	問10-1 健診受診状況
	28				問10-2 健診不受診理由	問10-2 健診不受診理由	問10-2 健診不受診理由
	29				問11 健康情報入手先	問11 健康情報入手先	問11 健康情報入手先
	30		問6 ほしい健康情報	問6 ほしい健康情報	問12 ほしい健康情報	問12 ほしい健康情報	問12 ほしい健康情報

1. 項目比較

領域	No.	1.乳幼児	2.学童期	3.思春期	4.青壮年	5.中年期	6.高齢期
食事	31	問10-1 朝食	問10-1 朝食	問10-1 朝食	問13-1 朝食	問13-1 朝食	問13-1 朝食
	32	問10-2 朝食欠食理由	問10-2 朝食欠食理由	問10-2 朝食欠食理由	問13-2 朝食欠食理由	問13-2 朝食欠食理由	問13-2 朝食欠食理由
	33	問10-3 誰と食べる(朝食)	問10-3 誰と食べる(朝食)	問10-3 誰と食べる(朝食)	問13-3 誰と食べる(朝食)	問13-3 誰と食べる(朝食)	問13-3 誰と食べる(朝食)
	34	問11 誰と食べる(夕食)	問11 誰と食べる(夕食)	問11 誰と食べる(夕食)	問14 誰と食べる(夕食)	問14 誰と食べる(夕食)	問14 誰と食べる(夕食)
	35	問12 塩分	問12 塩分	問12 塩分	問15 塩分	問15 塩分	問15 塩分
	36		問13 好き嫌い	問13 好き嫌い	問16 好き嫌い	問16 好き嫌い	問16 好き嫌い
	37	問14 自発的摂食					
	38		問14 食事の速さ	問14 食事の速さ	問17 食事の速さ	問17 食事の速さ	問17 食事の速さ
	39		問15-1 夕食時空腹でないこと				
	40		問15-2 夕食時空腹でない理由				
	41		問16 習いごとのある日の夕食				
	42	問13 野菜摂取			問18 野菜摂取	問18 野菜摂取	問18 野菜摂取
	43						問19 肉、魚、卵、豆腐、納豆の摂取
	44	問15 おやつ回数					
	45	問16 おやつ配慮					
	46						
	47			問15 外食やできあいの惣菜	問19 外食やできあいの惣菜	問19 外食やできあいの惣菜	問20 外食やできあいの惣菜
	48			問16 食材選択	問20 食材選択	問20 食材選択	問21 食材選択
	49				問21 食生活の課題	問21 食生活の課題	問22 食生活の課題
	50				問22 食事バランスガイド知識	問22 食事バランスガイド知識	問23 食事バランスガイド知識
運動	51		問17 楽しい運動	問17 運動が楽しいか			
	52		問18-1 運動有無	問18-1 運動有無	問23-1 運動有無	問23-1 運動有無	問24-1 運動有無
	53	問17 外遊び					
	54	問18 外遊び条件					
	55				問23-2 運動時間	問23-2 運動時間	問24-2 運動時間
	56				問23-3 運動場所	問23-3 運動場所	問24-3 運動場所
	57				問23-4 運動同士	問23-4 運動同士	問24-4 運動同士
	58		問18-2 運動内容	問18-2 運動内容	問23-5 運動内容	問23-5 運動内容	問24-5 運動内容
	59				問23-6 運動しない理由	問23-6 運動しない理由	問24-6 運動しない理由
	60		問19 今後の運動	問19 今後の運動	問24 今後の運動	問24 今後の運動	問25 今後の運動
	61		問20 運動の動機付け	問20 運動の動機付け	問25 運動の動機付け	問25 運動の動機付け	問26 運動の動機付け
睡眠	62	問19 就寝時間	問21 就寝時間	問21 就寝時間	問26 就寝時間	問26 就寝時間	問27 就寝時間
	63	問20 睡眠時間	問22 睡眠時間	問22 睡眠時間	問27 睡眠時間	問27 睡眠時間	問28 睡眠時間
	64	問21 昼寝時間					
	65		問23 目覚め	問23 目覚め	問28 目覚め	問28 目覚め	問29 目覚め
	66		問24 睡眠不足	問24 授業中の眠さ			
	67				問29 睡眠対策	問29 睡眠対策	問30 睡眠対策
	68		問25 携帯電話有無	問25 携帯電話			
	69		問26 電話・メール・インターネット時間	問26 電話・メール・インターネット時間			

領域	No.	1.乳幼児	2.学童期	3.思春期	4.青壮年	5.中年期	6.高齢期
精神 保健	70		問28 楽しい	問27 楽しい			
	71	問31 保育者ストレス有無	問29 ストレス有無	問28 ストレス有無	問30 ストレス有無	問30 ストレス有無	問31 ストレス有無
	72		問30 ストレス原因	問29 ストレス原因	問31 ストレス原因	問31 ストレス原因	問32 ストレス原因
	73	問32 育児ストレス					
	74	問30 保育者睡眠時間					
	75	問34 ストレス処理			問32 ストレス処理	問32 ストレス処理	問33 ストレス処理
	76	問35 ストレス対策	問31 ストレス対策	問30 ストレス対策	問33 ストレス対策	問33 ストレス対策	問34 ストレス対策
	77	問33 子育て協力者					
	78	問36 相談相手	問32 相談相手	問31 相談相手	問34 相談相手	問34 相談相手	問35 相談相手
	79			問32 精神症状			
	80			問33 憂鬱	問35 憂鬱	問35 憂鬱	問36 憂鬱
	81		問27-1 放課後 ひどりで室内ですこ そ				
	82		問27-2 放課後 友だち・兄弟などと室 内で遊ぶ				
	83		問27-3 放課後 友だち・兄弟などと外 で遊ぶ				
84		問27-4 放課後 学童保育や児童館へ 行く					
85		問27-5 放課後 習いごと(おけいこ) へ行く					
86		問27-6 放課後 学習じゅくへ行く					
87		問27-7 放課後 運動・スポーツのクラ ブへ行く					
88		問27-8 放課後 その他					
喫煙	89	問26 家族の喫煙	問33 家族の喫煙	問34 家族の喫煙			
	90			問35 喫煙経験			
	91				問36-1 喫煙状況	問36-1 喫煙状況	問37-1 喫煙状況
	92				問36-2(1) 何歳頃から	問36-2(1) 何歳頃から	問37-2(1) 何歳頃から
	93				問36-2(2) 喫煙本数	問36-2(2) 喫煙本数	問37-2(2) 喫煙本数
	94				問36-2(3) 喫煙期間	問36-2(3) 喫煙期間	問37-2(3) 喫煙期間
	95				問36-2(4) プリンクマン係数	問36-2(4) プリンクマン係数	問37-2(4) プリンクマン係数
	96		問34 喫煙意欲	問36 喫煙意欲			
	97				問36-3 禁煙意思	問36-3 禁煙意思	問37-3 禁煙意思
	98	問27 喫煙場所			問36-4 喫煙場所	問36-4 喫煙場所	問37-4 喫煙場所
	99				問36-5 禁煙理由	問36-5 禁煙理由	問37-5 禁煙理由
100				問37 禁煙促進	問37 禁煙促進	問38 禁煙促進	
101		問35 喫煙影響知識	問37 喫煙影響知識				
飲酒	102			問38 飲酒経験			
	103				問38-1 飲酒状況	問38-1 飲酒状況	問39-1 飲酒状況
	104				問38-2 飲酒量	問38-2 飲酒量	問39-2 飲酒量
	105		問36 飲酒意欲	問39 飲酒意欲			
	106				問38-3 禁酒、節酒意思	問38-3 禁酒、節酒意思	問39-3 禁酒、節酒意思
薬物	107		問37 薬物知識	問40 薬物知識			
	108		問38 薬物意識	問41 薬物意識			

1. 項目比較

領域	No.	1.乳幼児	2.学童期	3.思春期	4.青壮年	5.中年期	6.高齢期
歯科衛生	109				問39 自歯本数	問39 自歯本数	問40 自歯本数
	110	問22 歯磨き習慣	問39 歯磨き習慣	問42 歯磨き習慣	問40 歯磨き習慣	問40 歯磨き習慣	問41-1 歯磨き習慣
	111						問41-2 入れ歯洗浄
	112	問25 むし歯状況		問43 虫歯状況			
	113		問40-1 歯の症状	問44-1 歯の症状	問41-1 歯の症状	問41-1 歯の症状	問42-1 歯の症状
	114		問40-2 歯の相談	問44-2 歯の相談	問41-2 歯の相談	問41-2 歯の相談	問42-2 歯の相談
	115		問41 歯の健康維持	問45 歯の健康維持	問42 歯の健康維持	問42 歯の健康維持	問43 歯の健康維持
	116				問43 歯科検診受診場所	問43 歯科検診受診場所	問44 歯科検診受診場所
	117	問23 フッ化物塗布					
118	問24 フッ化物洗口						
健康対策	119						問45 社会活動参加
	120						問46-1 1年前と比べた外出の回数
	121						問46-2 外出増加の条件
	122	問28 事故予防情報源					
	123	問29 チャイルドシート使用状況					
	124				問44 休日の外出	問44 休日の外出	
	125				問45 休日の外出先	問45 休日の外出先	
	126				問46-1 頻度(買い物)	問46-1 頻度(買い物)	
	127				問46-2 頻度(食事)	問46-2 頻度(食事)	
	128				問46-3 頻度(文化活動)	問46-3 頻度(文化活動)	
	129				問46-4 頻度(スポーツ)	問46-4 頻度(スポーツ)	
	130				問46-5 頻度(子どもの遊び)	問46-5 頻度(子どもの遊び)	
	131				問46-6 頻度(親の看病・介護)	問46-6 頻度(親の看病・介護)	
	132				問46-7 頻度(ボランティア活動)	問46-7 頻度(ボランティア活動)	
	133				問46-8 頻度(その他)	問46-8 頻度(その他)	
	134				問47 外出手段	問47 外出手段	
	135	問37 子育て支援要望					
	136	問38 子育て情報要望					
	137			問46-1 性知識(月経)			
	138			問46-2 性知識(妊娠や出産)			
139			問46-3 性知識(中絶)				
140			問46-4 性知識(避妊)				
141			問46-5 性知識(エイズ)				
142			問46-6 性知識(性感染症)				
143			問47 性知識源泉				
中井町の事業	144	問39 知っている事業	問42 知っている事業	問48 知っている事業	問48 知っている事業	問48 知っている事業	問47 知っている事業
	145	問40 参加したことがある事業	問43 参加したことがある事業	問49 参加したことがある事業	問49 参加したことがある事業	問49 参加したことがある事業	問48 参加したことがある事業
	146	問41 参加したい事業	問44 参加したい事業	問50 参加したい事業	問50 参加したい事業	問50 参加したい事業	問49 参加したい事業
	147				問51 事業への参加促進	問51 事業への参加促進	問50 事業への参加促進
	148	問42 意見(記述)	問45 意見(記述)	問51 意見(記述)	問52 意見(記述)	問52 意見(記述)	問51 意見(記述)

45

49

52

69

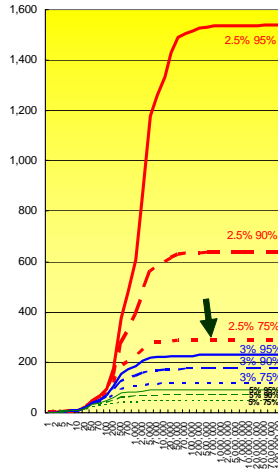
69

62

2. 調査結果の概要

調査の必要標本数

標本調査 信頼限界	2.5%		3%		5%	
	95%	90%	95%	90%	95%	90%
母集団母件数	1,932	1,844	1,932	1,844	1,932	1,844
1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10
15	15	15	15	15	15	15
20	20	20	20	20	20	20
25	25	25	25	25	25	25
30	30	30	30	30	30	30
35	35	35	35	35	35	35
40	40	40	40	40	40	40
45	45	45	45	45	45	45
50	50	50	50	50	50	50
55	55	55	55	55	55	55
60	60	60	60	60	60	60
65	65	65	65	65	65	65
70	70	70	70	70	70	70
75	75	75	75	75	75	75
80	80	80	80	80	80	80
85	85	85	85	85	85	85
90	90	90	90	90	90	90
95	95	95	95	95	95	95
100	100	100	100	100	100	100



調査の必要標本数は、母集団が大きければ増えますが、一定の標本誤差、信頼限界のとき、だんだん頭打ちになる傾向を示します。今回の調査では、標本誤差2.5%、信頼限界75%で対象集団ごとに必要な数を計算しました。

必要数・回収数

No.	対象群	対象年齢	人口	2.5%		3%		5%	
				95%	90%	95%	90%	95%	90%
1	乳幼児期	0~6歳	424	332	254	172	148	124	93
2	学童期	7~12歳	555	408	296	190	161	133	98
3	思春期	13~19歳	708	485	335	205	172	140	102
4	青年壮年期	20~39歳	2,323	925	499	257	207	162	113
5	中年期	40~64歳	3,522	1,070	538	267	214	167	115
6	高齢期	65歳以上	2,326	926	499	257	207	162	113
	計		10,056			2,421	1,348		

No.	対象群	対象年齢	人口	用紙色	必要回収数	設定回収数	必要送付数	設定送付数	学校配布	郵送分	回収数	回収率
1	乳幼児期	0~6歳	424	黄色	172	40%	430	424		424	233	55.0%
2	学童期	7~12歳	555	茶色	190	40%	475	555	555		452	81.4%
3	思春期	13~19歳	708	空色	205	40%	513	708	272	436	392	55.4%
4	青年壮年期	20~39歳	2,323	水色	257	25%	1,028	1,028		1,028	372	36.2%
5	中年期	40~64歳	3,522	桃色	267	30%	890	890		890	411	46.2%
6	高齢期	65歳以上	2,326	クリーム色	257	40%	643	643		643	362	56.3%
	計		10,056		1,348		3,979	4,248	827	3,421	2,222	52.3%

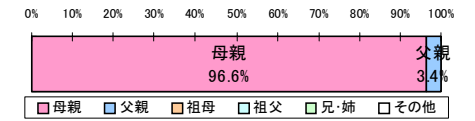
対象群を年齢階級別に6グループに分け、それぞれの人口から必要な数を計算しました。また、やや低めに回収率を想定し、必要送付数を計算し、住民基本台帳から乱数による無作為抽出で対象者を選出しました。その結果、実際の回収率は想定を超え、全ての対象群で必要回収数を上回ることができました。なお、学童および思春期の中学生については学校配布・回収、その他は郵送調査としました。

(3)

属性

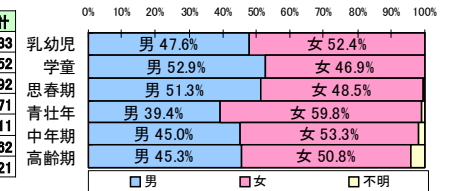
1 回答者

項目	乳幼児
母親	224
父親	8
祖母	0
祖父	0
兄弟・姉妹	0
その他	0
不明	1
合計	233



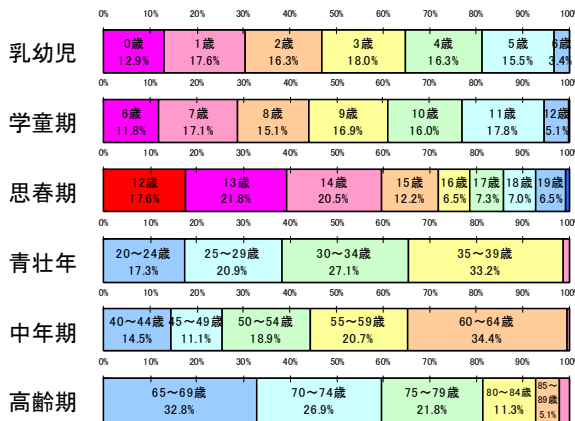
3 性別

項目	男	女	不明	合計
乳幼児	111	122	0	233
学童	239	219	1	452
思春期	201	190	1	392
青年壮年期	148	222	3	371
中年期	185	219	7	411
高齢期	184	184	14	382
計	1,046	1,149	26	2,221



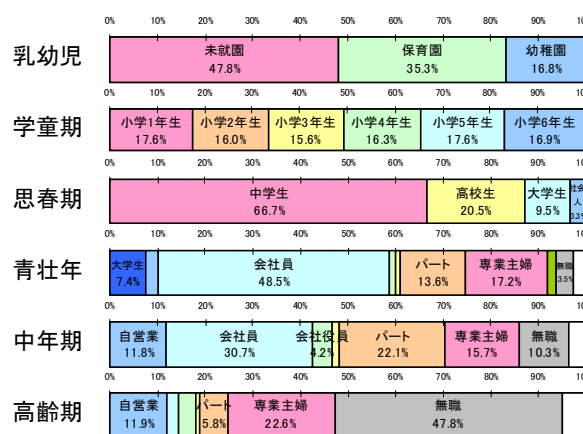
調査票の記入は基本的に対象者本人によることとしましたが、乳幼児については本人回答が困難なため、保護者等に回答を依頼しました。母親の回答が9割以上でした。また回答者の性別は、青年でやや女性の回答が多めでしたが、全体的に男女で大きなばらつきはありませんでした。

4 年齢



回答者の年齢では、標本抽出時の年齢を2011年3月31日現在とし、調査は2011年7月~8月の間に実施したため、一部対象年齢以上の回答者がありましたが、対象群の差異による大きな誤差を生むとは想定できなかったため、標本から除外せず、そのまま集計に用いました。

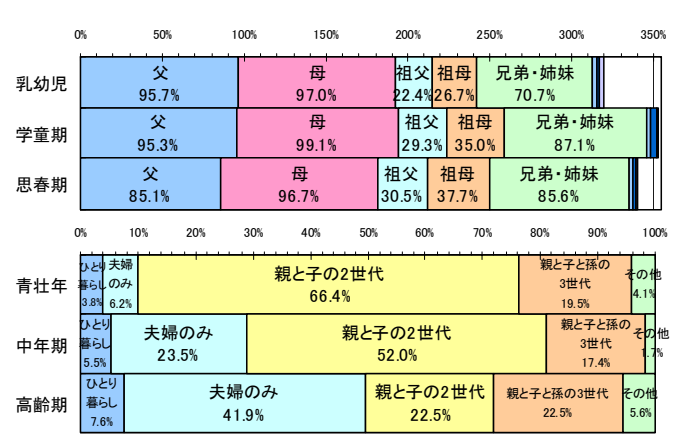
5 属性



各対象群ごとの属性の分布も妥当な結果が得られました。

(11)

6 同居者



同居者については、幼児期から思春期までとそれ以上では異なる質問としました。青年以上では、年代が上がるるとともに親と子の2世代が減少し、夫婦のみ、ひとり暮らしが増加する傾向が見られます。

(12)

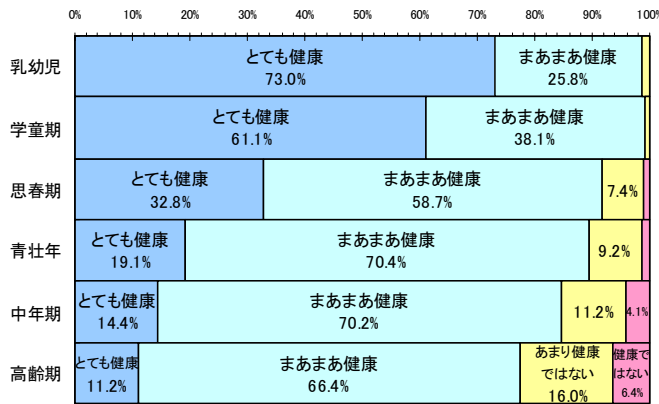
6 同居者 (その他記述)

乳幼児	学童期	思春期	青壮年	中年期	高齢期
(1.男) ひいおばあちゃん	(1.男) いとこおじいちゃんのお姉さん	(1.男) ひいじいちゃん	(1.男) 妻と子	(1.男) 兄弟	(1.男) 夫婦で娘の所で生活
(1.男) ひいおばあちゃん	(1.男) おじいちゃんのお姉さん	(1.男) 別居、アパート	(1.男) 寮	(1.男) 夫婦と義母	(1.男) 夫婦と親
(1.男) 犬	(1.男) おじいちゃんのお姉さん	(2.女) ひいおばあちゃん	(2.女) 夫婦と子供	(1.男) 親、兄夫婦、甥、姪	(1.男) 私と子供の2人暮らし
(1.男) 祖々母	(2.女) お父さんは単身赴任	(2.女) ひいおばあちゃん(入院中)	(2.女) 夫婦と子供	(1.男) 親夫婦、子の三世代	(1.男) 4世代8人
(2.女) ひいおばあちゃん	(2.女) ひいおじいちゃん、ひいおばあちゃん	(2.女) ひいおばあちゃん(入院中)	(2.女) 婚約者と同居	(2.女) 四世代	(2.女) めい
(2.女) ひいじいちゃん	(2.女) ペット	(2.女) ペット	(2.女) 夫	(2.女) 姉妹	(2.女) 姉妹
(2.女) 曾祖父	(2.女) 曾祖父	(2.女) 曾祖父	(2.女) 祖母親兄妹	(2.女) 夫婦義母義弟	(2.女) 娘と二人
(2.女) 祖々母	(2.女) 祖々母	(2.女) 祖々母	(2.女) 祖父祖母親	(2.女) 娘夫婦、孫	(2.女) 子供3人
			(2.女) 親と(2.女) 親私、私の子		(2.女) 息子と2人
					(2.女) 施設
					(2.女) 本人と子の2人
					親子3人

その他の同居者の記述では、曾父母との同居が挙がっています。

(13)

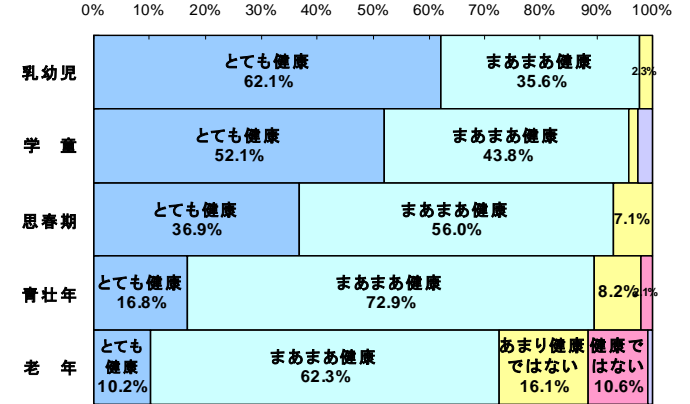
7 健康状態



健康状態は、乳幼児が最も健康で、年齢が上がるほどとても健康が低くなり、あまり健康ではない、健康ではないが挙がる傾向を示しています。

(14)

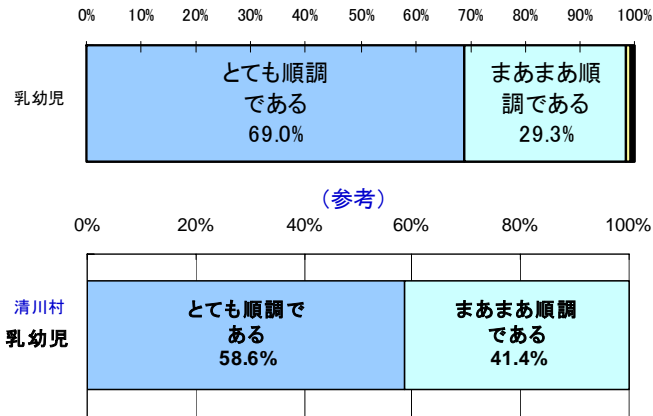
7 健康状態 (参考)



清川村

参考までに、先行調査である清川村健康増進計画・食育計画でのアンケート調査結果を参照すると、中井町と同様の結果となっています。しかし、乳幼児の健康度は中井町の方が高いようです。

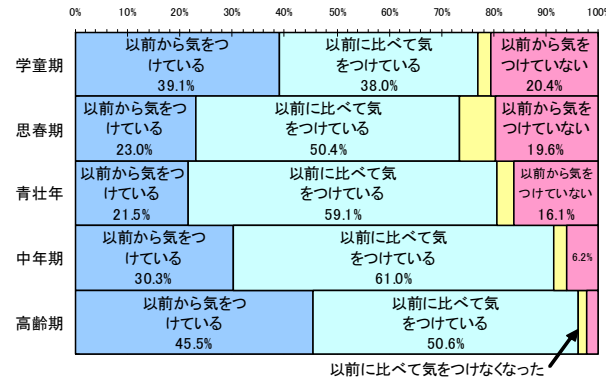
8 発育状況



乳幼児の発育状況を見ても、中井町ではとても順調であるが多くなっています。

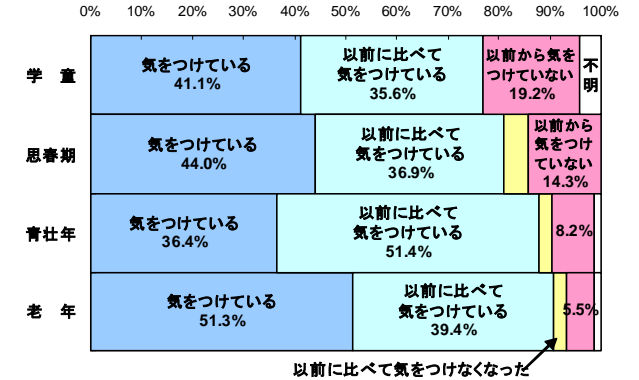
(16)

9 身体健康



(17)

9 身体健康 (参考)

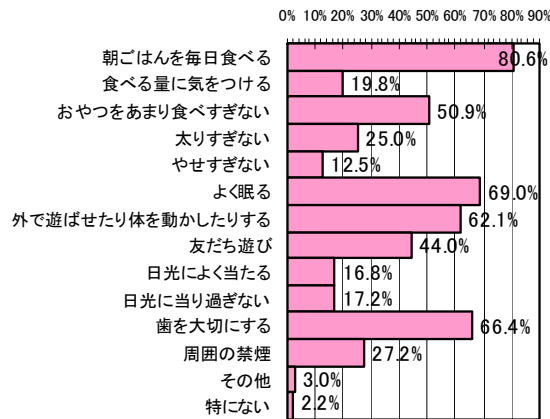


清川村

健康に気をつけているかどうかでは、以前から気をつけている人は学童で高く、思春期、青壮年で低く、その年齢が上がると高くなる傾向を示しています。一方、以前から気をつけていないは、学童で最も高く年齢が上がると低下する傾向を示します。学童では、気をつけている人といない人に両極化している傾向がうかがえます。

参考に清川村の調査結果をみると、全体的に中井町と同じ傾向になっていますが、思春期、青壮年(清川村の青壮年は中井町の青壮年+中年期に相当)は、以前から気をつけている人が、中井町よりやや多いようです。

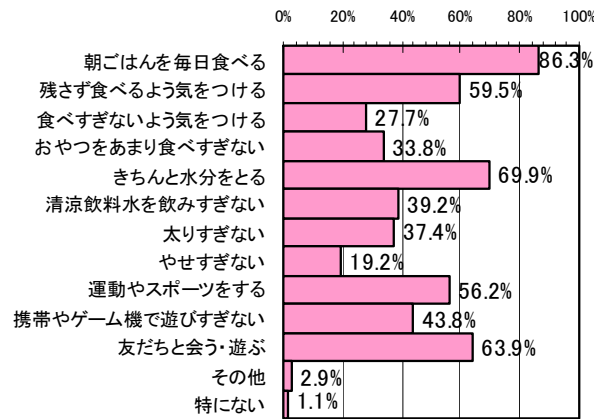
10 健康法
乳幼児



乳幼児の健康法は、朝ごはんを毎日食べる、よく眠るなどが高くなっています。

(19)

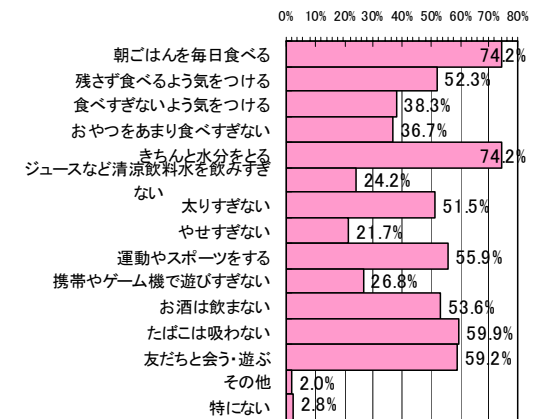
10 健康法
学童期



学童期の健康法は、乳幼児期と選択肢が異なりますが、やはり朝ごはんを毎日食べるが高くなっています。

(20)

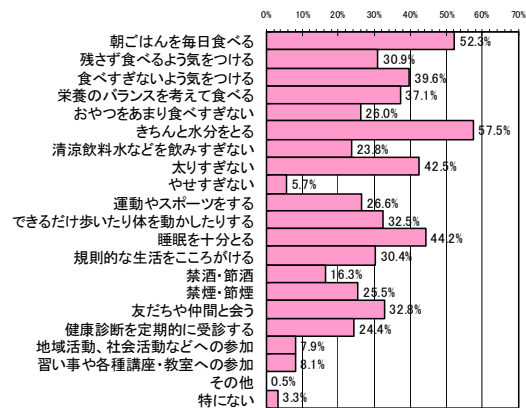
10 健康法
思春期



思春期の健康法も、学童期と選択肢が異なります。朝ごはんを毎日食べる、きちんと水分をとるなどが高くなっています。

(21)

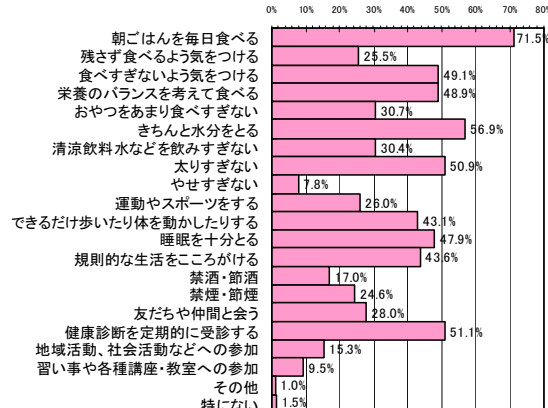
10 健康法
青年



青年から高齢期では、共通の選択肢となっています。調査時点が7~8月、それも節電の夏であったことが影響し、きちんと水分をとるが高くなっています。

(22)

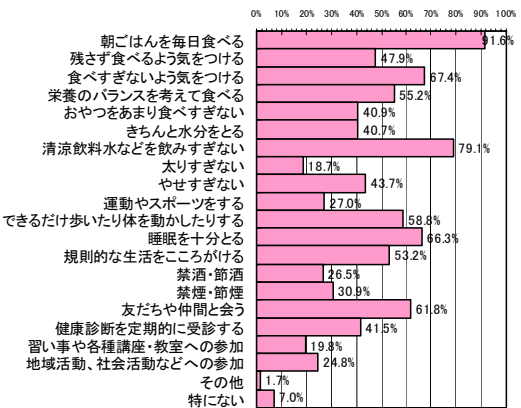
10 健康法
中年期



中年期も他と同様、朝ごはんを毎日食べる、きちんと水分をとるなどが高くなっています。

(23)

10 健康法
高齢期



高齢期は、朝ごはんを毎日食べるが高いのは他と同様なのですが、清涼飲料水などを飲みすぎないが高いのは、他と異なります。

(24)

10 健康法 (順位)

(25)

10 健康法 (順位) (参考) 清川村

(26)

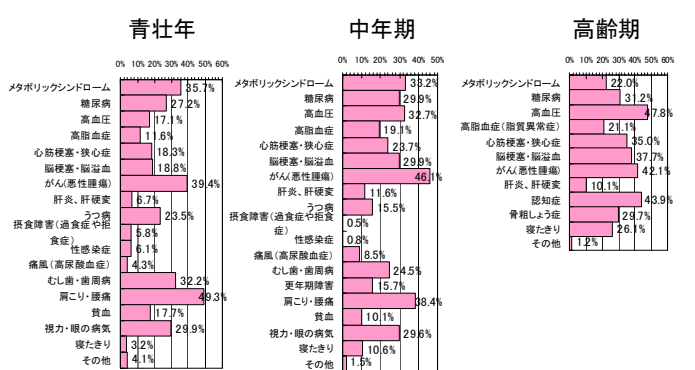
11 疾病関心

(27)

項目	乳幼児	学童	思春期	青少年	中年期	高齢期	項目	乳幼児	学童	思春期	青少年	中年期	高齢期
1 朝ごはんを毎日食べる	80.6%	88.3%	74.2%	57.5%	71.5%	91.8%	1 朝ごはんを毎日食べる	74.4%	90.1%	75.0%	55.7%	83.5%	83.5%
2 よく眠る	69.0%	69.9%	74.2%	62.3%	56.8%	78.1%	2 よく眠る	73.3%	68.2%	58.3%	47.6%	63.1%	63.1%
3 十分に水分をとる	68.4%	63.9%	59.2%	42.5%	51.1%	67.4%	3 十分に水分をとる	72.1%	64.8%	57.1%	46.5%	60.6%	60.6%
4 外で遊ばせたり体を動かしたりする	62.1%	58.5%	55.9%	38.6%	48.1%	61.8%	4 外で遊ばせたり体を動かしたりする	67.4%	56.3%	54.6%	41.8%	58.1%	58.1%
5 友達や家族と話す	50.9%	56.2%	52.3%	32.5%	43.6%	58.8%	5 友達や家族と話す	44.2%	43.7%	50.0%	37.1%	47.5%	47.5%
6 運動やスポーツをする	44.0%	43.8%	51.5%	30.8%	43.1%	41.8%	6 運動やスポーツをする	40.8%	44.0%	44.0%	32.9%	42.8%	42.8%
7 野菜や果物を食べる	27.2%	39.2%	38.3%	30.4%	30.7%	47.9%	7 野菜や果物を食べる	40.8%	39.4%	38.9%	28.6%	30.6%	30.6%
8 肉や魚を食べる	28.0%	37.4%	28.0%	28.0%	30.4%	41.5%	8 肉や魚を食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
9 豆や納豆を食べる	18.8%	37.4%	29.5%	24.4%	28.0%	40.9%	9 豆や納豆を食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
10 甘いものを食べる	17.2%	38.7%	23.8%	25.5%	28.0%	30.8%	10 甘いものを食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
11 辛いものを食べる	17.0%	27.7%	24.2%	24.2%	28.0%	28.5%	11 辛いものを食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
12 やさしいものを食べる	12.5%	18.3%	16.3%	16.3%	17.0%	18.8%	12 やさしいものを食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
13 酸味のあるものを食べる	3.0%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	13 酸味のあるものを食べる	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%
14 その他	2.2%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	1.1%	14 その他	39.4%	39.4%	38.9%	27.9%	28.6%	28.6%

健康法の順位を比較すると、全体的に朝ごはんを毎日食べるが上位で、きちんと水分をとるも上位になっています。しかし、テレビなどで高齢者の脱水症予防が叫ばれていたにもかかわらず、高齢期では13位と低迷しています。やはり情報への感度の低さが懸念されることでしょう。

ちなみに清川村の調査は11月~12月であったため、水分をとるとの選択肢はありませんが、全体的に似た傾向を示しています。



疾病関心については、各年代で関心の高い疾病が異なることも想定されるため、共通の疾病と、各年代で特有の疾病とを入れて調査しました。

11 疾病関心(順位)

(28)

12 メタボ

(29)

12 メタボ

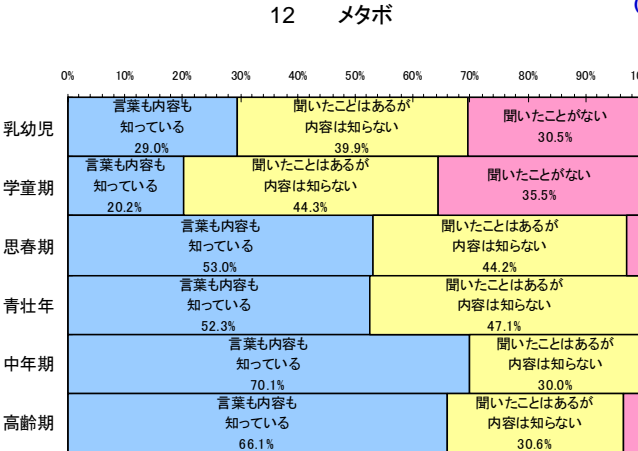
(30)

順位	項目	青壮年	順位	項目	中年期	順位	項目	高齢期
1	がん(悪性腫瘍)	39.4%	1	がん(悪性腫瘍)	48.1%	1	高血圧	47.8%
2	メタボリックシンドローム	35.7%	2	メタボリックシンドローム	33.2%	2	がん(悪性腫瘍)	42.1%
3	糖尿病	27.2%	3	高血圧	32.7%	3	脳梗塞・脳溢血	37.7%
4	脳梗塞・脳溢血	18.8%	4	糖尿病	29.9%	4	心筋梗塞・狭心症	35.0%
5	心筋梗塞・狭心症	18.3%	5	脳梗塞・脳溢血	29.9%	5	糖尿病	31.2%
6	高血圧	17.1%	6	心筋梗塞・狭心症	23.7%	6	寝たきり	26.1%
7	高脂血症	11.6%	7	高脂血症	19.1%	7	メタボリックシンドローム	22.0%
8	肝炎・肝硬変	6.7%	8	肝炎・肝硬変	11.6%	8	高脂血症	21.1%
9	寝たきり	3.2%	9	寝たきり	10.8%	9	肝炎・肝硬変	10.1%

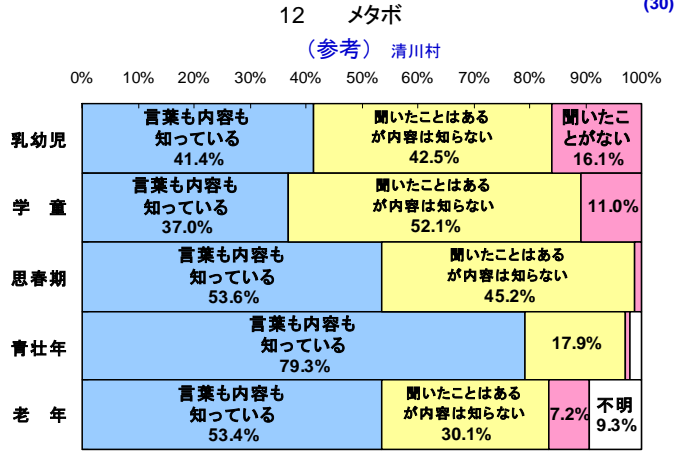
(参考) 清川村

順位	項目	青壮年	順位	項目	老年
1	高血圧	47.7%	1	高血圧	56.4%
2	メタボリックシンドローム	40.1%	2	糖尿病	38.1%
3	脳梗塞・脳溢血	39.3%	3	心筋梗塞・狭心症	35.8%
4	糖尿病	36.6%	4	がん(悪性腫瘍)	32.6%
5	心筋梗塞・狭心症	34.7%	5	脳梗塞・脳溢血	32.1%
6	高脂血症	32.4%	6	寝たきり	29.4%
7	高血圧	32.1%	7	高脂血症	28.9%
8	寝たきり	18.7%	8	メタボリックシンドローム	28.0%
9	肝炎・肝硬変	10.7%	9	肝炎・肝硬変	9.2%
10	その他	5.7%	10	その他	5.5%

共通疾病では、青壮年、中年期ではがん、メタボリックシンドロームへの関心が高く、高齢期では高血圧、がんとなっていました。清川村においても、同様な傾向でした。



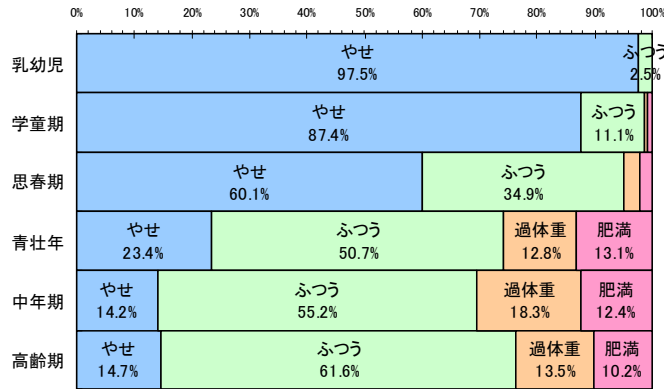
メタボリックシンドロームについては、知っている人は学童期で最も低く、年代が挙がると知っている人が多くなるという傾向でした。



ちなみに清川村の調査では、全般的に似た傾向ではありますが、学童期、乳幼児期では知っている人が多く、聞いたことがない人は中井町よりかなり低くなっています。これは、最近ニュースバリューがなくなったためテレビなどで話題として取り上げなくなったことと関係があるかもしれません。一過性の話題としてではない取り組みが期待されることです。

15 体型(BMI)

(31)

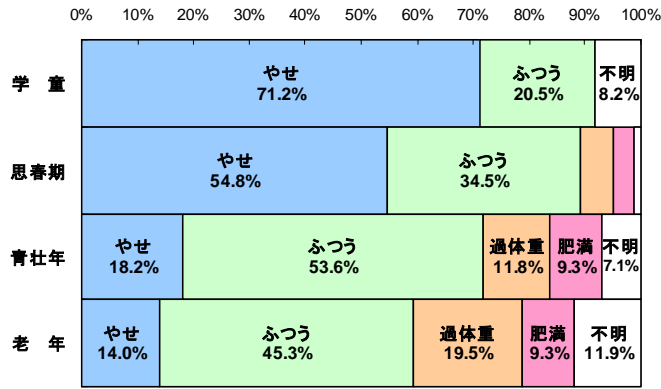


BMIの分布をみると、年齢が上がるほどやせが少なくなり、過体重、肥満が多くなる傾向を示しています。
 なお、乳幼児、学童については通常BMIを用いて判断しませんが、ここでは各年代とも同一の評価基準で示してあります。

15 体型(BMI)

(32)

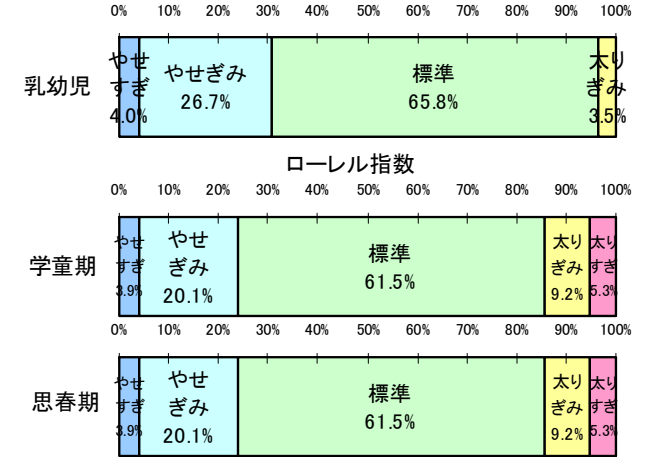
(参考) 清川村



ちなみに清川村の調査でも同様の傾向が見られます。

カウプ指数

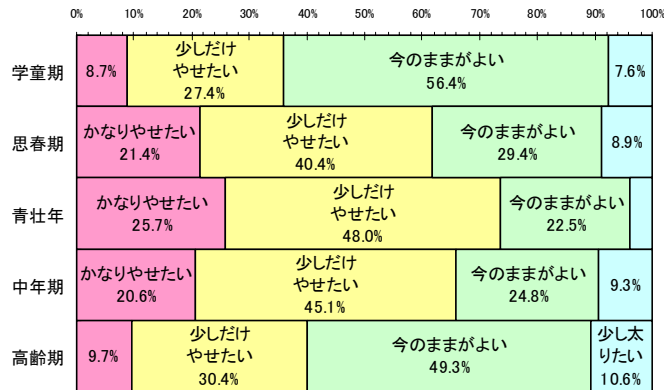
(33)



なお、乳幼児についてはカウプ指数、学童期、思春期についてはローレル指数で表示すると、「標準=ふつう」が多くなっています。

16 体型希望

(34)

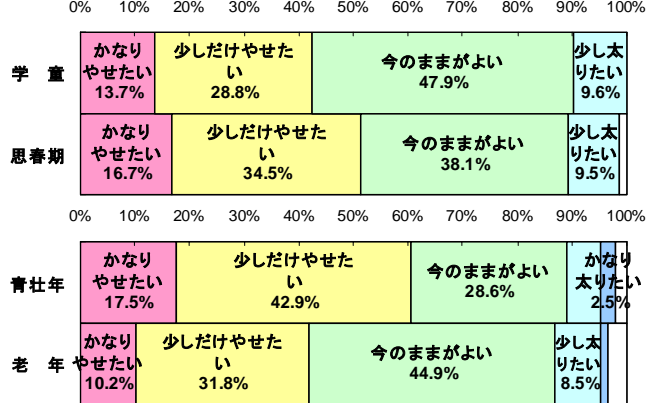


一方、体型希望ではかなりやせたい、少しだけやせたい人が青壮年以最も高く、その前後の思春期、中年期でも高くなっています、

16 体型希望

(35)

(参考) 清川村



ちなみに清川村でも同様の傾向を示していました。

参考

カウプ指数=BMI=体重(kg)/身長(m)²

発育状態	カウプ指数	乳幼児
やせすぎ	13未満	
やせぎみ	13以上~15未満	
標準	15以上~19未満	
太りすぎ	19以上~22未満	
太りすぎ	22以上	

ローレル指数=(体重(kg)/身長(cm)³)×10⁷

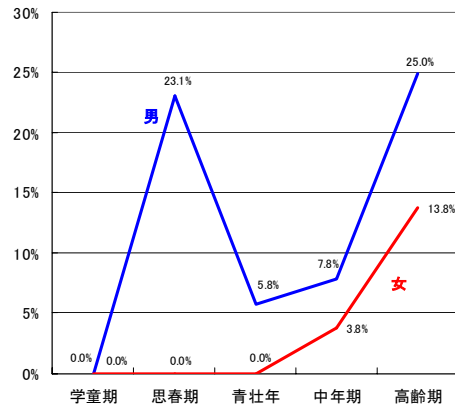
発育状態	ローレル指数	学童・思春期 (小学生~高校卒業)
やせすぎ	100未満	
やせぎみ	100以上~115未満	
標準	115以上~145未満	
太りすぎ	145以上~160未満	
太りすぎ	160以上	

BMI=体重(kg)/身長(m)²

肥満度	BMI	成人
やせ	19.8未満	
ふつう	19.8以上~24.2未満	
過体重	24.2以上~26.5未満	
肥満	26.5以上	

16 体型希望

過体重・肥満なのによせたいと思っていない人

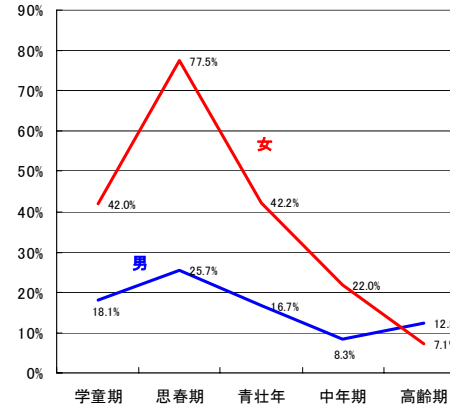


体型希望をBMIと比較してみると、過体重・肥満なのによせたいと思っていない人は男性に見られ、女性では中年期以降に高くなる傾向を示しますが、それ以前の年代では全くありません。

(36)

16 体型希望

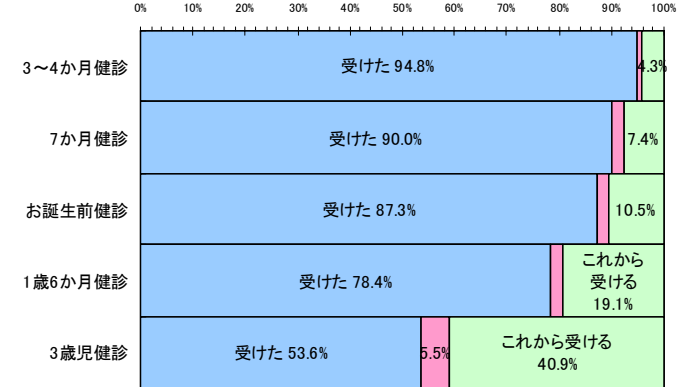
やせているのによせたいと思っている人



一方、現在やせているのに、更によせたい人は学童期から中年期までの女性に多く見られます。若い女性のよせ傾向は特に神奈川県において顕著といわれますが、広い年代に広がっていることがうかがえます。

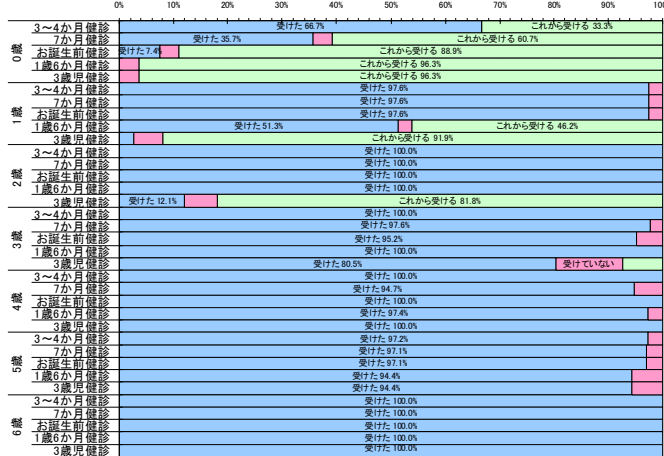
(37)

17~21 乳幼児健診



乳幼児が乳幼児健診を受けたかどうかは、現在の年齢によるため、年齢が高い健診ほどこれから受けるが多くなっています。

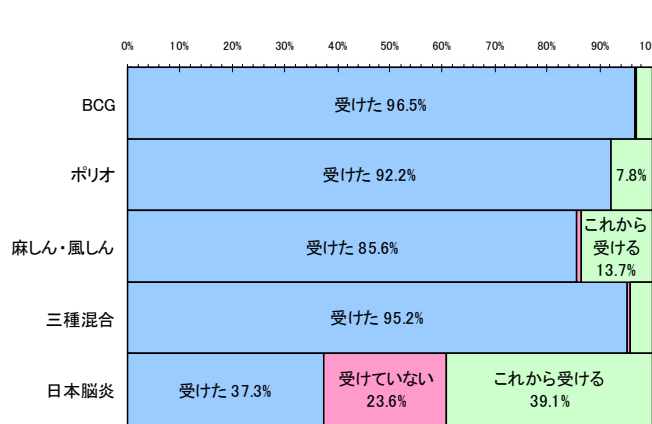
17~21 乳幼児健診



対象者の年齢別にみるとこの傾向は明らかであり、健診を受診させていないということではないと判断できます。

(39)

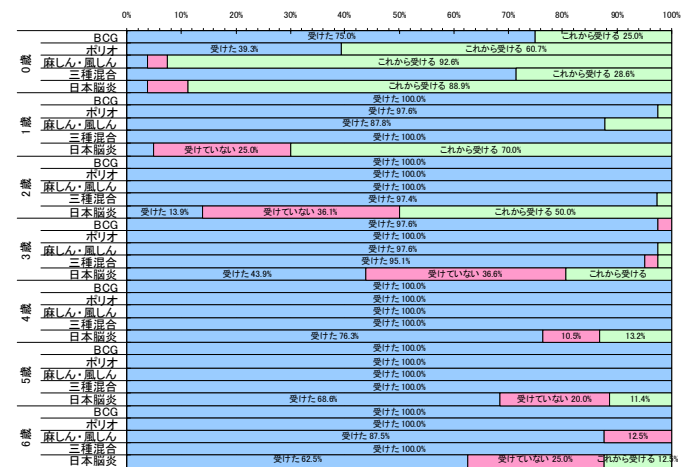
22~26 予防接種



なお予防接種でも同様な傾向がうかがえますが、日本脳炎については副反応の問題から、やや躊躇している傾向もうかがえます。

(40)

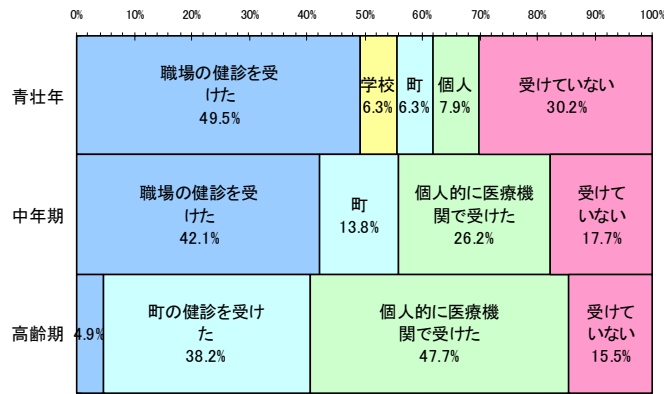
22~26 予防接種



年齢が低いほど、これから受ける予防接種が多いことが分かります。

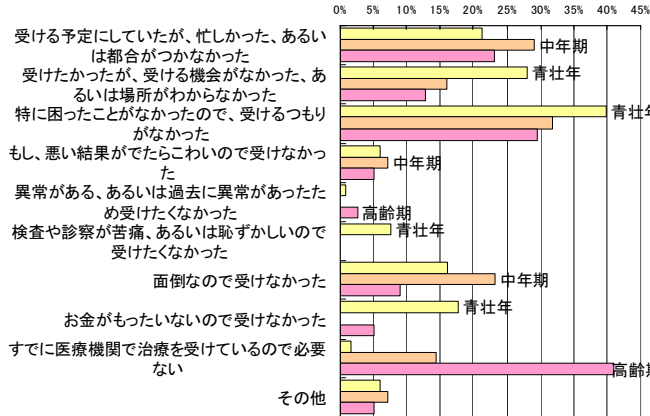
(41)

27 健診受診状況 (42)



健診の受診状況では、青壮年、中年期は職場健診が多いことが分かりますが、一方年代が低いほど受けていない人も多くなっています。また、高齢者では個人的に医療機関で受けたという回答が多くなっていますが、これは「健診」ではなく、病気の「受診」を指している可能性もあるため、要注意です。

28 健診不受診理由 (43)



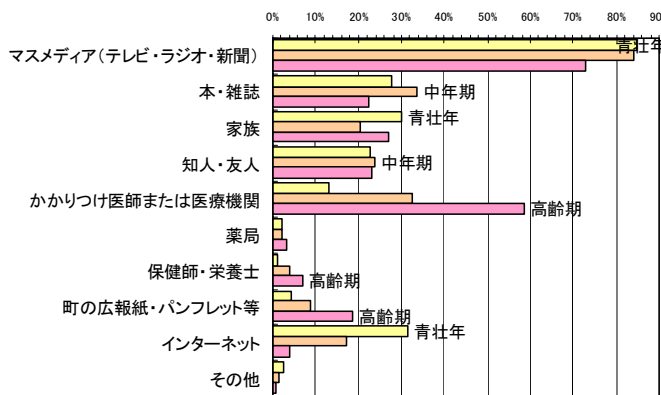
健診を受けなかった理由で、忙しくて都合がつかなかったのは中年期、どこで受診すればいいかが分からなかったや、特に困ったことがなかったので受けなかったは青壮年が高い。また、すでに医療機関で治療を受けているので必要ないという回答は、高齢者できわめて高くなっています。

28 健診不受診理由(その他記述) (44)

年代	記述
青壮年	(1.男) 感覚 (2.女) きっかけがない (2.女) 今月受ける (2.女) 受診する前に退職 (2.女) 妊娠していたから (2.女) 授乳中(出産後)だったため (2.女) 町の子宮がん乳がん検査は受けている (2.女) 町の健診が受けにくい
中年期	(1.男) 三ヶ月おきに血液検査している (1.男) 医師が病院を移動したため新しい医者にかかりたくない (2.女) どの病院に行ったらいいかわからない (2.女) 二年に一度ドック受診 (2.女) 町内の受け方が分からない
高齢期	(1.男) お金 (2.女) 医療機関で毎月1回 (2.女) 頭の手術をしたのでできなかった

健診を受けなかった理由として記述のあったものを挙げました。

29 健康情報入手先 (45)



健康情報の入手先では、どの年代でもマスメディアが高くなっています。一方、かかりつけ医師または医療機関は高齢者できわめて高く、町の広報紙・パンフレットも高齢者が高い。インターネットは青壮年が高い。

29 健康情報入手先(順位) (46)

年代	順位	項目	割合
青壮年	1	マスメディア(テレビ・ラジオ・新聞)	84.9%
	2	インターネット	31.5%
	3	家族	29.9%
	4	本・雑誌	27.9%
	5	知人・友人	22.5%
	6	かかりつけ医師または医療機関	13.2%
	7	町の広報紙・パンフレット等	4.4%
	8	その他	2.5%
	9	薬局	2.2%
	10	保健師・栄養士	1.1%
中年期	1	マスメディア(テレビ・ラジオ・新聞)	84.0%
	2	本・雑誌	33.5%
	3	かかりつけ医師または医療機関	32.5%
	4	知人・友人	23.6%
	5	家族	20.4%
	6	インターネット	17.2%
	7	町の広報紙・パンフレット等	8.9%
	8	保健師・栄養士	4.2%
	9	薬局	2.2%
	10	その他	1.5%
高齢期	1	マスメディア(テレビ・ラジオ・新聞)	72.7%
	2	かかりつけ医師または医療機関	58.4%
	3	家族	27.0%
	4	知人・友人	23.2%
	5	本・雑誌	22.3%
	6	町の広報紙・パンフレット等	18.8%
	7	保健師・栄養士	7.0%
	8	インターネット	4.1%
	9	薬局	3.2%
	10	その他	0.9%

健康情報入手先を順位で見ると、どの年代もマスメディアが1位ですが、青壮年では2位にインターネットが上がっています。中年期では2位は本・雑誌。高齢期ではかかりつけ医師または医療機関が2位になっています。

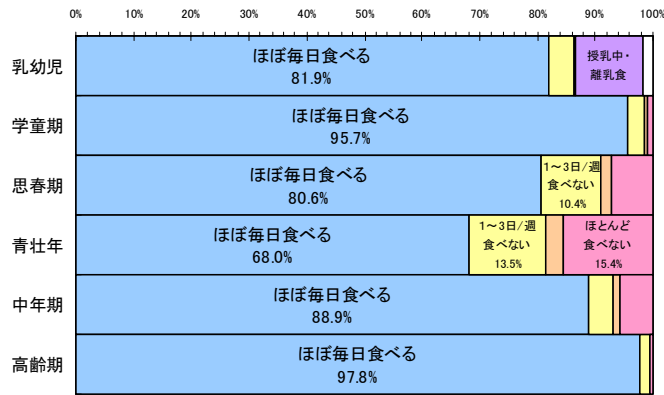
30 ほしい健康情報 (47)

年代	順位	項目	割合
学童期	1	運動やスポーツについて	37.6%
	2	放射能など安全な環境について	33.5%
	3	健康によい食事について	32.1%
	4	自分の体について	29.0%
	5	睡眠について	27.6%
	6	安全な食料、食事について	22.2%
	7	友だちとのつきあいについて	19.9%
	8	その他	17.4%
	9	お酒・たばこ・薬物について	13.6%
	10	特になし	1.1%
思春期	1	睡眠について	38.4%
	2	運動やスポーツについて	35.0%
	3	健康によい食事について	32.4%
	4	放射能など安全な環境について	31.1%
	5	特になし	26.1%
	6	自分の体について	24.0%
	7	友だちとのつきあいについて	21.4%
	8	安全な食料、食事について	17.5%
	9	お酒・たばこ・薬物について	9.1%
	10	その他	0.5%
青年期	1	ストレスなど、心の健康について	41.2%
	2	健康によい食事について	39.5%
	3	放射能など安全な環境について	31.1%
	4	運動やスポーツについて	26.1%
	5	安全な食料、食事について	24.1%
	6	自分の体について	23.0%
	7	睡眠について	16.0%
	8	特になし	14.3%
	9	お酒・たばこ・薬物について	7.6%
	10	その他	0.6%
中年期	1	健康によい食事について	38.3%
	2	ストレスなど、心の健康について	34.4%
	3	放射能など安全な環境について	28.6%
	4	安全な食料、食事について	27.6%
	5	運動やスポーツについて	20.7%
	6	自分の体について	17.6%
	7	特になし	16.8%
	8	睡眠について	11.2%
	9	お酒・たばこ・薬物について	4.6%
	10	その他	0.0%
高齢期	1	健康によい食事について	39.0%
	2	ストレスなど、心の健康について	27.2%
	3	放射能など安全な環境について	27.2%
	4	安全な食料、食事について	26.2%
	5	特になし	26.2%
	6	運動やスポーツについて	18.4%
	7	自分の体について	18.0%
	8	睡眠について	17.4%
	9	お酒・たばこ・薬物について	2.0%
	10	その他	0.7%

ほしい健康情報では、年齢が上がるとともに健康に良い食事についてが上位になっていく傾向がうかがえました。なお、学童期では放射能など安全な環境についてが2位に上がっており、調査時点で福島第一原発の放射能漏れが収束していないための特異的な結果となりました。

食事
31 朝食

(48)

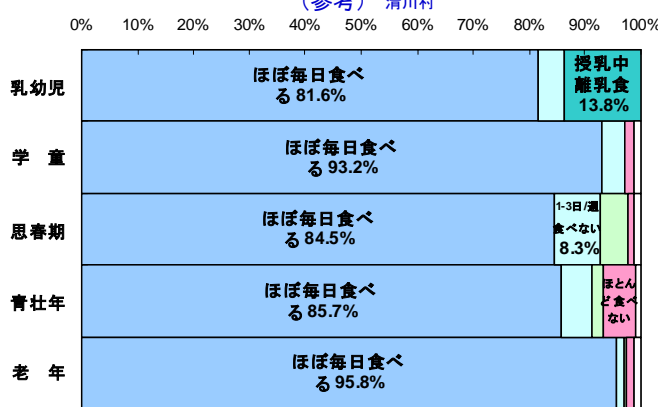


朝食はどの年代でもほぼ毎日食べる人が大多数でしたが、青壮年、思春期では毎日は食べない人も見られました。

食事
31 朝食

(参考) 清川村

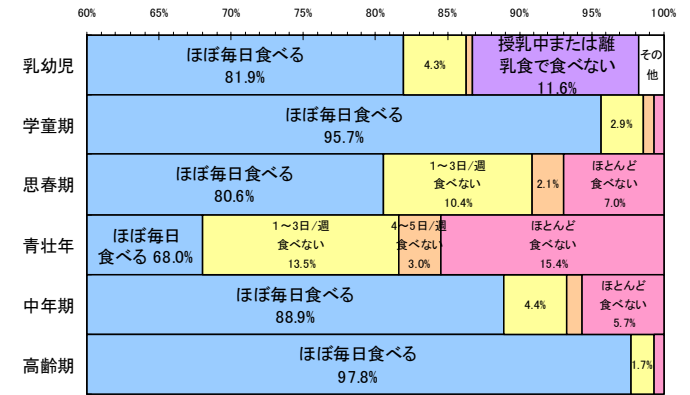
(49)



参考に清川村の結果をみると、中井町より食べる人が多くなっていました。

食事
31 朝食

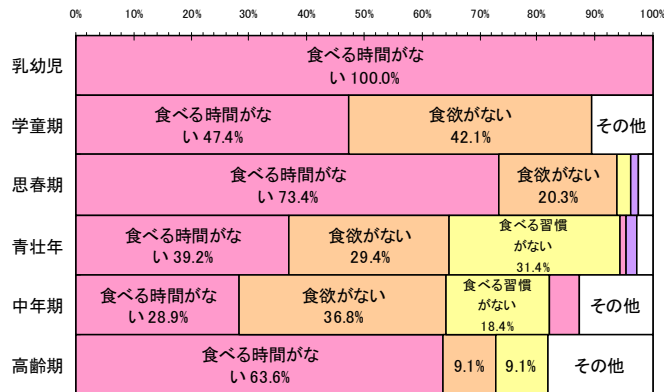
(50)



毎日は食べない人の部分を拡大してみました(左端が60%になっています)。青壮年では食べない人が多いことが分かります。

32 朝食欠食理由

(51)



それでは朝食を食べない理由をみると、全体的には食べる時間がないが多く、特に思春期では起床が遅いために朝食がとれないことが想定されます(62就寝時間、63睡眠時間参照)。また、青壮年、中年期では食べる習慣がない人も多くなっています。

32 朝食欠食理由 (その他記述)

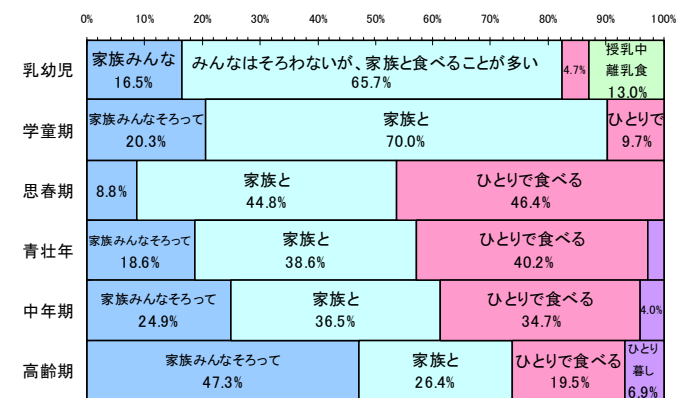
(52)

- | 学童期 | 思春期 | 青壮年 | 中年期 | 高齢期 |
|---|--|--|--|---|
| (2.女) 給食全部食べなきゃいけないから
(2.女) 食べる気がしない | (1.男) めんどくさい
(1.男) 時間ギリギリまで寝たい
(1.男) 朝起きることが出来ない
(1.男) 食べるのがだるい | (1.男) 寝てる
(1.男) 牛乳と青汁
(2.女) ダイエット
(2.女) 起床時間が日によってことなる
(2.女) 食材がないときがある
(2.女) 食欲がなくて寝たい | (1.男) 胸焼けがする
(2.女) お腹の調子が心配
(2.女) コーヒーだけ飲む
(2.女) ダイエットのため
(2.女) 排泄に集中するため
(2.女) 朝食を食べないという健康法 | (2.女) おじいさんとおばあさんとゆっくり食べる
(2.女) わすれる
(2.女) 寝すぎる時がある |

朝食を食べない理由の記述では、思春期では起床との関係が見られません。一方、青壮年、中年期ではダイエットのためという相反する記述(朝食を抜くと太りやすい)があることから注意が必要と思われる。

33 誰と食べる(朝食)

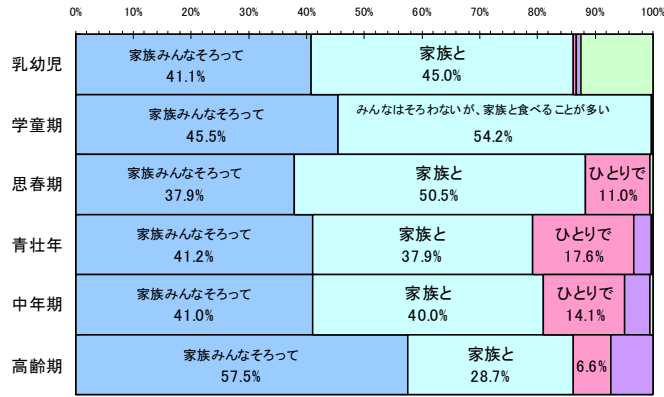
(53)



朝食をだれと食べるかでは、大体家族と食べるようですが、思春期ではひとりで食べるが半数近くになっています。

34 誰と食べる(夕食)

(54)

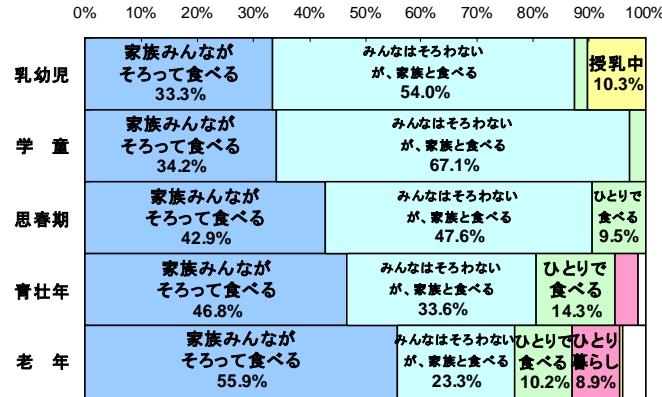


夕食では、朝食よりひとりで食べる人は少なく、家族と食べる人が多くなっています。

34 誰と食べる(夕食)

(参考) 清川村

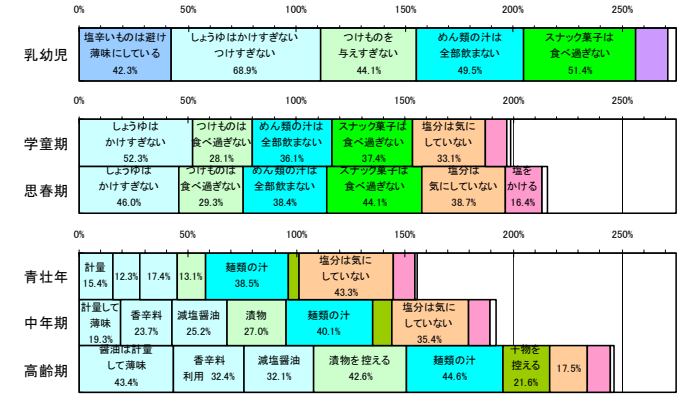
(55)



なお、清川村では年齢が高くなるほど家族みんながそろって食べる人が多くなっていたのですが、中井町ではそのような傾向は見られませんでした。一方年齢が高いほどひとりで食べる人も多かったのですが、中井町では必ずしもそのような傾向は見られませんでした。

35 塩分

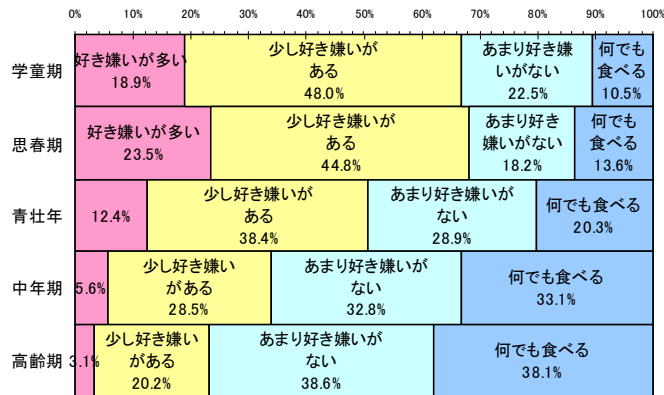
(56)



塩分については、全体的に気にしている人が多かったのですが、気にしていない人も学童期から中年期にかけて幅広く存在しました。

36 好き嫌い

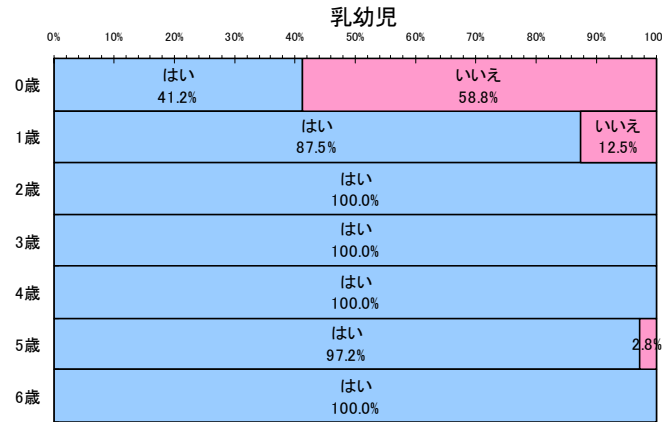
(57)



好き嫌いが最も高いのは思春期で、年齢が上がるにつれ少なくなり、何でも食べるが多くなっていました。

37 自発的摂食

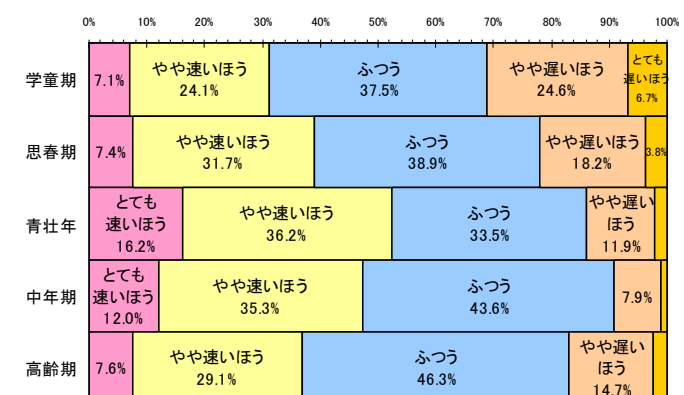
(58)



自発的摂食がないのは0歳と1歳の一部にみられる程度でした。

38 食事の速さ

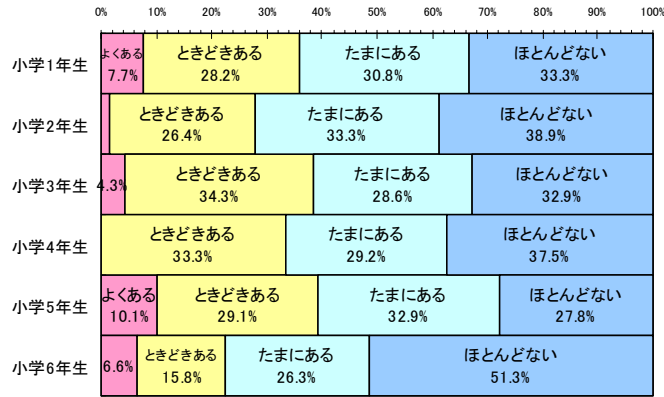
(59)



食事の速い人は青壮年で最も高く、その後では低くなっていました。一方学童と高齢者では、遅い人も多くなっていました。食事が速いだけでなく、遅い人も健康上の課題が見られることがあるので、要注意です。

39 夕食時空腹でないこと

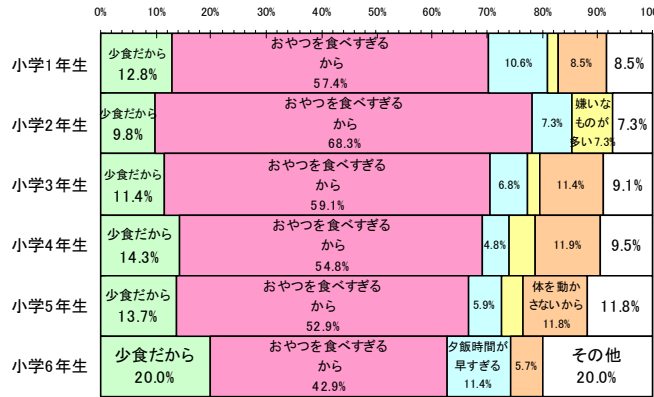
(60)



夕食時に空腹でないことは、特に学年と関係なく全体的にあるようです。

40 夕食時空腹でない理由

(61)



夕食時に空腹でない理由は、おやつを食べ過ぎるからが多くなっています。

40 夕食時空腹でない理由 (その他記述)

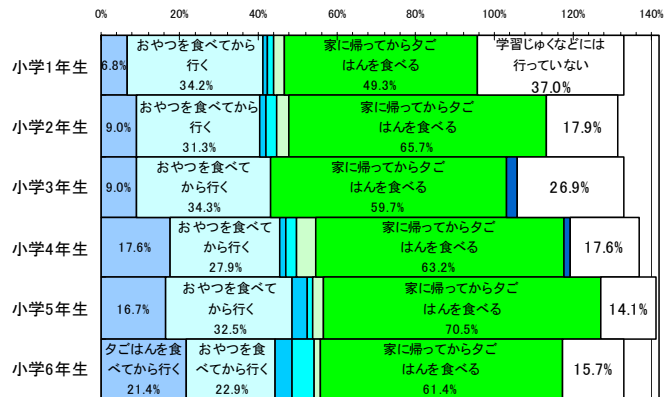
(62)

- (1.男) おなかの調子が悪いから
- (1.男) おやつが遅いから
- (1.男) お腹が痛い
- (1.男) なんとなく
- (1.男) 動きすぎて空かない
- (1.男) 夕ご飯までにお腹が空いて待たないのでおやつを食べてしまう
- (1.男) 外が暑くてあまり食欲が出ない
- (1.男) 学童でおやつを食べすぎるときがあるから
- (1.男) 学童でのおやつ時間が遅い時や量が多い時
- (1.男) 帰宅後外で遊ぶことが少ないから
- (1.男) 暑いから
- (1.男) 暑いから
- (1.男) 暑いから
- (1.男) 給食の食べ過ぎ
- (1.男) 給食の食べ過ぎ
- (1.男) 給食を食べすぎているから
- (1.男) 運動しすぎて、お腹が減らない
- (1.男) 運動しすぎて食べたくなくなるから
- (1.男) 食事前に何かを食べてしまった時
- (2.女) お屋のごはんをたくさん食べてしまうから
- (2.女) お腹が空いてないから
- (2.女) 夏バテのため
- (2.女) 学童でのおやつ時間や量が多い時
- (2.女) 寝たりしてからの
- (2.女) 昼ごはんがまだおなかの中に残っているから
- (2.女) 昼ごはんの食べ過ぎ
- (2.女) 屋敷を食べすぎたとき
- (2.女) 疲れすぎているから
- (2.女) 疲れて眠たいから
- (2.女) 食べる気があまりしない
- (2.女) 食欲がわかない

夕食時に空腹でない理由の記述では、食べすぎの他に暑さの影響がうかがえ、調査の時的なものとも考えられます。

41 習いごとのある日の夕食

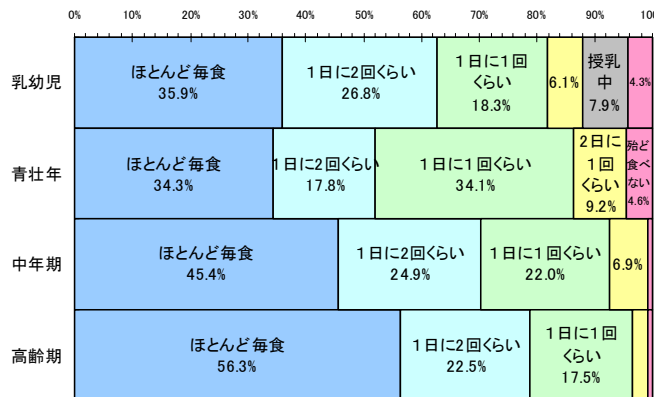
(63)



習い事がある日の夕食は、全体的に家に帰ってから夕飯をとる人が多くなっていましたが、学年が上がると夕飯を食べてから行く人も多くなっており、高学年向けの習い事の開始時間が遅いことも推定されました。

42 野菜摂取

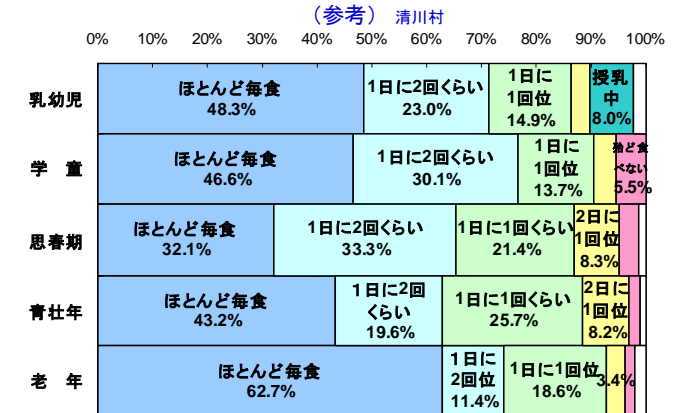
(64)



野菜摂取は全体的に年齢が上がるほど多いように見えました。ただし、今回の調査では学童期と思春期に質問していないため、欠落データがあります。

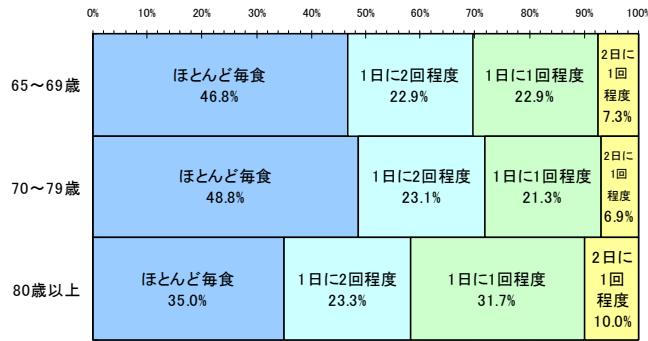
42 野菜摂取

(65)



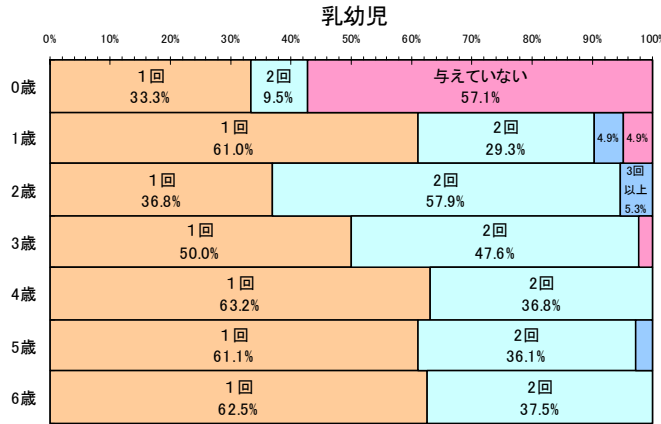
ちなみに清川村の調査結果でみると、思春期が最も低く、その後で高くなるという結果でした。中井町でも同様の傾向となっていることが想定されるので、留意すべきです。

43 肉、魚、卵、豆腐、納豆の摂取 (66)



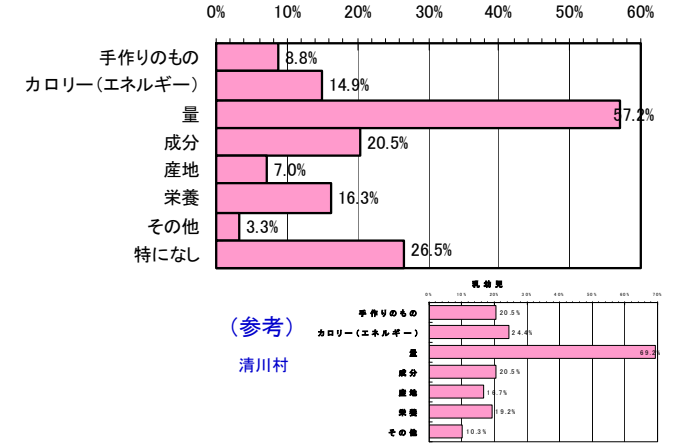
高齢者についてはたんぱく質の摂取が低いための低栄養が想定されるため、たんぱく質の摂取について質問しました。その結果、やはり80歳以上ではほとんど毎食という人が少なくなっていました。

44 おやつ回数 (67)



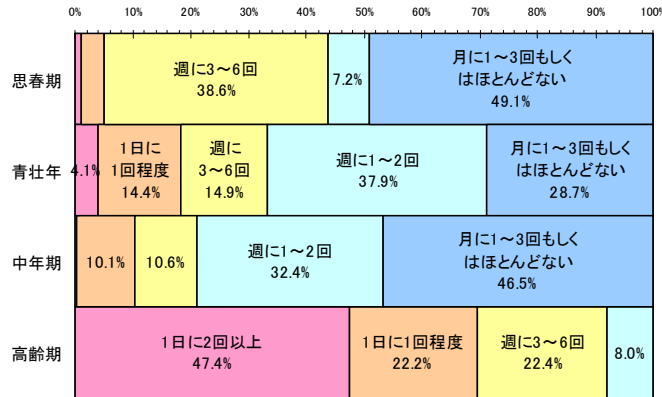
おやつ回数については、0歳や1歳の一部で与えていない程度でした。

45 おやつ配慮 乳幼児 (68)



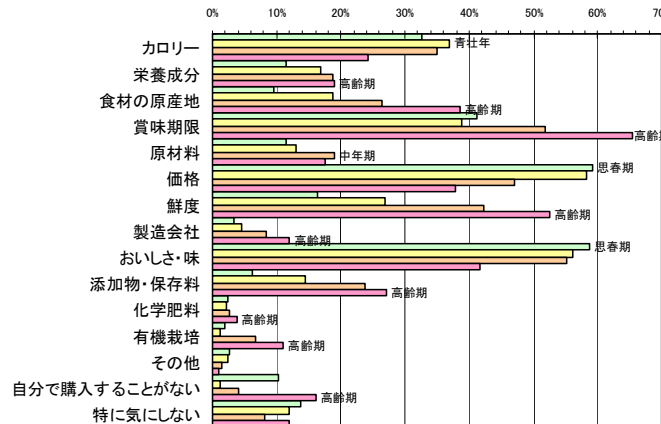
おやつ配慮については、量が多く、ついで特になしが高くなっていました。ちなみに清川村では、その他の選択肢が高く、特に手作りのものという答えは高くなっていました。

47 外食やできあいの惣菜 (69)



外食やできあいの惣菜の利用を聞いたところ、若者に多いのではないかと予想を裏切り、高齢者の利用が高いという結果となりました。これは、コンビニ等で小分けパックを提供したり、高齢者の利便性を高めていることが影響している可能性があります。

48 食材選択 (70)



食材の選択では、カロリーを気にするのは青壮年。栄養成分、食材の原産地、賞味期限や鮮度を気にするのは高齢者という結果となりました。また、価格、おいしさ・味を気にするのは思春期でした。

48 食材選択(順位) (71)

順位	思春期・男	思春期・女	青壮年・男	青壮年・女	中年期・男	中年期・女	高齢期・男	高齢期・女
1	おいしさ・味 53.8%	おいしさ・味 64.5%	おいしさ・味 55.2%	おいしさ・味 65.0%	おいしさ・味 52.5%	おいしさ・味 66.7%	おいしさ・味 55.3%	おいしさ・味 74.0%
2	賞味期限 33.0%	賞味期限 50.0%	賞味期限 30.3%	賞味期限 44.3%	賞味期限 35.0%	賞味期限 54.2%	賞味期限 40.1%	賞味期限 50.9%
3	原材料 18.3%	原材料 15.8%	原材料 18.6%	原材料 18.9%	原材料 14.0%	原材料 12.4%	原材料 10.3%	原材料 16.4%
4	価格 13.7%	価格 14.0%	価格 12.4%	価格 17.6%	価格 17.2%	価格 12.7%	価格 12.7%	価格 16.4%
5	カロリー 20.3%	カロリー 45.7%	カロリー 28.2%	カロリー 43.4%	カロリー 43.4%	カロリー 28.7%	カロリー 40.1%	カロリー 37.4%
6	鮮度 19.4%	鮮度 19.4%	鮮度 18.3%	鮮度 32.1%	鮮度 27.1%	鮮度 42.6%	鮮度 25.7%	鮮度 38.6%
7	自分で購入することがない 4.1%	自分で購入することがない 7.5%	自分で購入することがない 2.1%	自分で購入することがない 5.6%	自分で購入することがない 7.2%	自分で購入することがない 4.2%	自分で購入することがない 1.4%	自分で購入することがない 11.1%
8	栄養成分 11.2%	栄養成分 11.2%	栄養成分 10.8%	栄養成分 17.0%	栄養成分 12.7%	栄養成分 24.1%	栄養成分 19.1%	栄養成分 22.8%
9	原材料 8.8%	原材料 4.1%	原材料 8.9%	原材料 10.1%	原材料 17.2%	原材料 23.6%	原材料 16.4%	原材料 21.1%
10	賞味期限 4.1%	賞味期限 8.1%	賞味期限 6.9%	賞味期限 7.7%	賞味期限 12.2%	賞味期限 11.1%	賞味期限 15.8%	賞味期限 15.2%
11	価格 4.1%	価格 4.1%	価格 3.4%	価格 5.6%	価格 5.6%	価格 7.9%	価格 16.8%	価格 11.1%
12	賞味期限 3.8%	賞味期限 3.2%	賞味期限 2.1%	賞味期限 5.5%	賞味期限 5.5%	賞味期限 3.2%	賞味期限 2.9%	賞味期限 2.9%
13	化学肥料 3.0%	化学肥料 2.7%	化学肥料 2.1%	化学肥料 1.4%	化学肥料 1.4%	化学肥料 1.4%	化学肥料 0.9%	化学肥料 7.8%
14	有機栽培 2.5%	有機栽培 1.8%	有機栽培 0.7%	有機栽培 0.0%	有機栽培 1.7%	有機栽培 1.4%	有機栽培 2.6%	有機栽培 5.3%
15	その他 2.5%	その他 1.1%	その他 0.7%	その他 0.0%	その他 1.7%	その他 1.7%	その他 1.3%	その他 0.6%

食材選択の順位をみると、思春期、青壮年では男女とも価格、おいしさ・味が上位でした。一方、中年期の女性、高齢期の男女では賞味期限が高くなっていました。

48 食材選択 (その他記述)

(72)

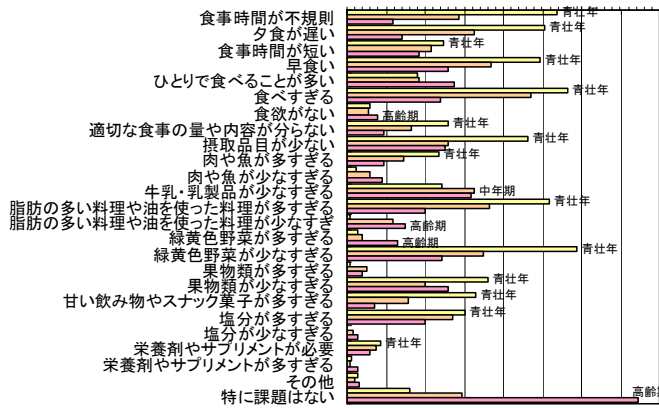
49 食生活の課題

(73)

49 食生活の課題

(74)

思春期	青壮年	中年期	高齢期
(1.男) 見た目	(1.男) ボリューム感	(1.男) 好み	(1.男) 便がよくて食べ物
(1.男) 見た目	(1.男) 見た目	(1.男) 油ものはさける	(1.男) 食材原産地が放射能汚染地区か否か
(1.男) 見た目	(1.男) 見た目	(1.男) 肉料理を控える	(1.男) 殆ど弁当は購入しない
(1.男) 親が買う、作ってくれる	(1.男) 量の多さ	(1.男) 肉料理を控える	(2.女) 殆ど弁当は購入しない
(1.男) 量、入っているもの	(1.男) 食べたいものを食べる	(2.女) バランス	(2.女) 野菜は自家菜園
(2.女) アレルギーの食材	(2.女) バランス	(2.女) メニューの食べたいものを食べる	
(2.女) 見た目	(2.女) 見た目	(2.女) 野菜が多く入っているか	
(2.女) 見た目	(2.女) 見た目のおいしさ		



食生活の課題では、全般的にどの選択肢も青壮年の回答が高くなっていました。

青年・男	青年・女	中年期・男	中年期・女
1 食事時間が不規則	1 緑黄色野菜が少なすぎる	1 食べすぎる	1 食べすぎる
2 夕食が遅い	2 摂取量が少ない	2 遅い	2 緑黄色野菜が少なすぎる
3 食べ過ぎる	3 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	3 脂肪の多い料理や油を使った料理が多すぎる	3 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
4 朝食が遅い	4 脂肪の多い料理や油を使った料理が多すぎる	4 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	4 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
5 緑黄色野菜が少なすぎる	5 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	5 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	5 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
6 食事時間が不規則	6 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	6 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	6 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
7 夕食が遅い	7 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	7 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	7 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる

食生活の課題を順位別にみると、青壮年・男では、食事時間が不規則、早食い、夕食が遅いなどが上位でした。中年期は男女とも食べ過ぎるが1位でした。

食材選択の記述では、思春期、青壮年では見た目のおいしさが多く挙げられていました。

49 食生活の課題

(75)

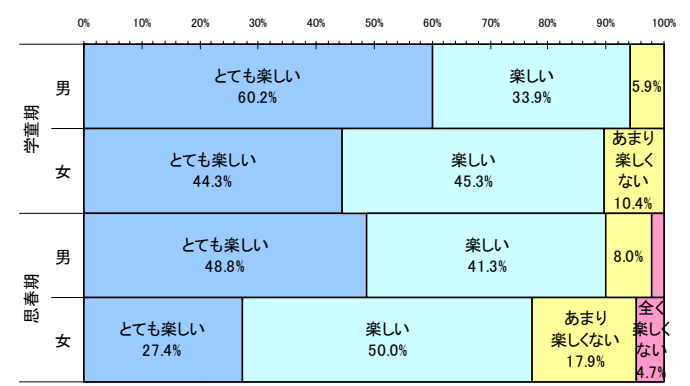
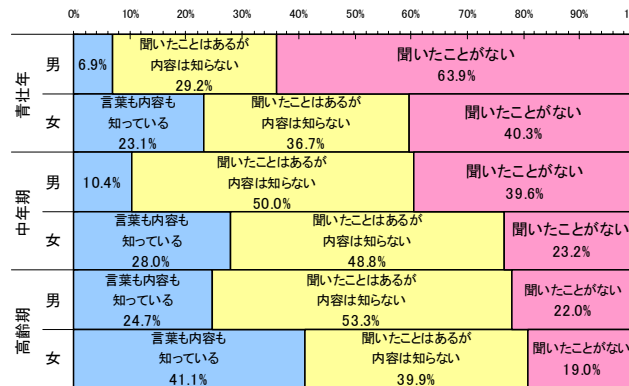
50 食事バランスガイド知識

(76)

運動 楽しい運動

(77)

高年齢期・男	高年齢期・女
1 特に関心はない	1 特に関心はない
2 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	2 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
3 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	3 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
4 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	4 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
5 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	5 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
6 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	6 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
7 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	7 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	8 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	9 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	10 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	11 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	12 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	13 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	14 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	15 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	16 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	17 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	18 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	19 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	20 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	21 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	22 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	23 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	24 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	25 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる
26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる	26 肉の多い料理や油を使った料理が多すぎる

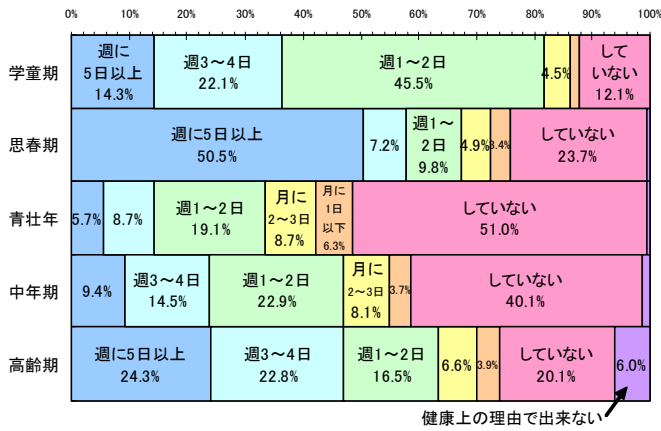


高齢期では、男女とも「特に課題はない」が1位となっており、介入の難しさが想定されます。

食事バランスガイドについては、各年代とも男性より女性のほうが知っている、また年代が上がるほど知っている人が多くなる、という結果でした。

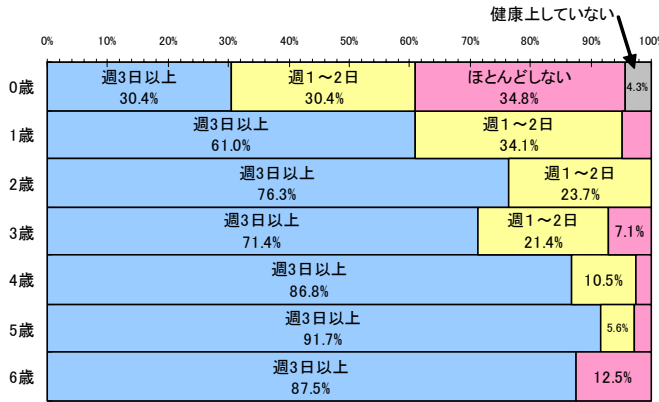
運動が楽しいかという問では、男子のほうが女子より楽しい、思春期より学童のほうが楽しいという人が多くなっていました。

52 運動有無 (78)



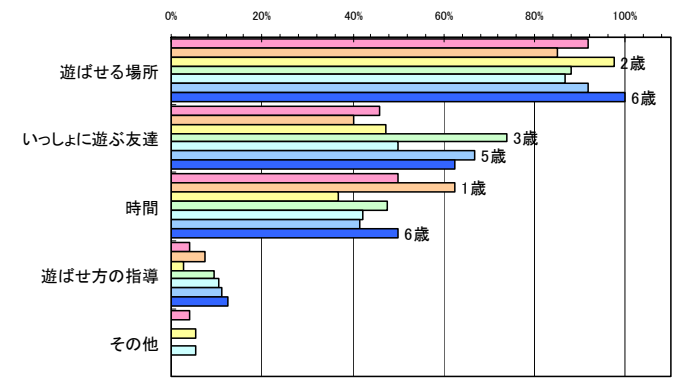
運動を週5日以上しているのは思春期が最も多く、ついで高齢者が多いという結果でした。一方していない人は青壮年、中年期で高くなっていました

53 外遊び (79)



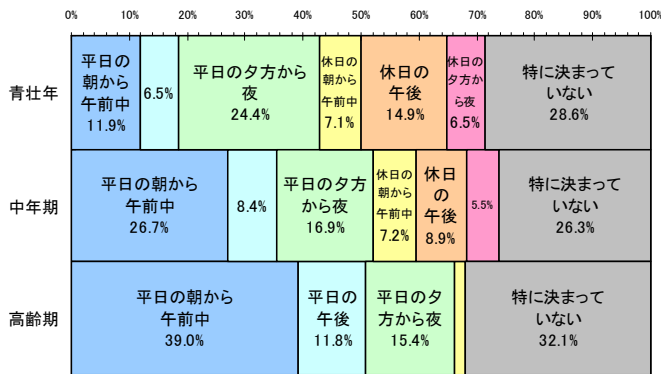
乳幼児の外遊びについては、年齢が上がるほど週3日以上が高くなっていました。

54 外遊び条件 (80)



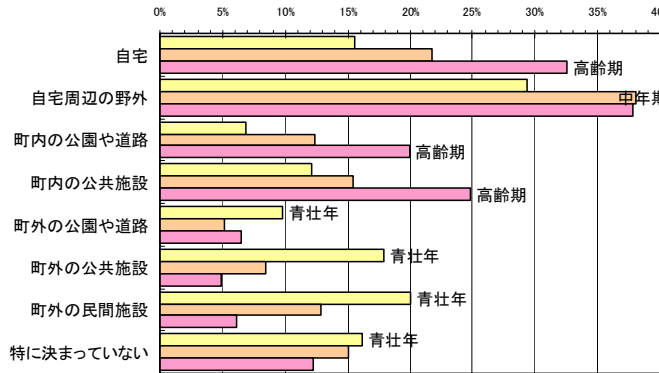
外遊びの条件については、全般的に遊ばせる場所が高くなっていました。なお、いっしょに遊ぶ友達については、3歳と5歳で高くなっています。

55 運動時間 (81)



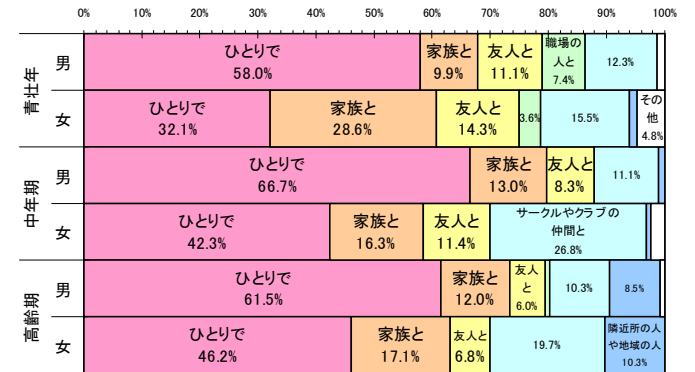
運動時間は、年齢が上がるほど平日の朝から午前中が多くなっており、青壮年では平日の夕方から夜、休日の午後が多くなっています。

56 運動場所 (82)



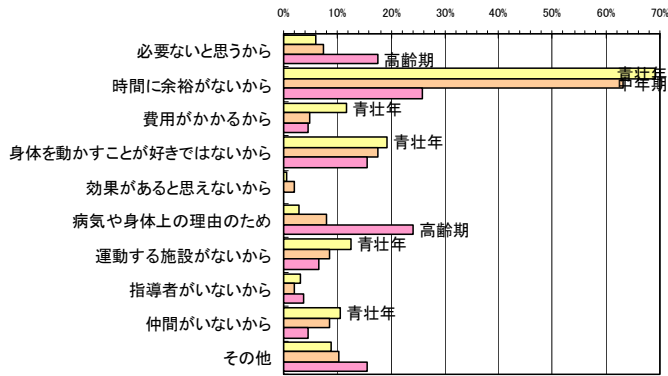
運動場所で自宅が特に高いのは高齢期、自宅近くの野外は中年期、高齢期が高くなっています。その他にも町内が多く、全般的に近い場所が多くなっています。一方、青壮年は町外が多くなっています。

57 運動同士 (83)



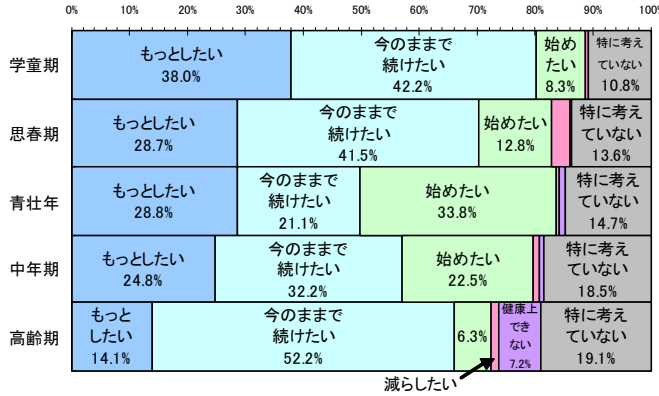
運動同士は、男性は各年代とも「ひとりで」が多くなっています。女性は、家族と、サークルやクラブの仲間とが多くなっています。

59 運動しない理由 (90)



運動しない理由では、必要ないと思うからは高年齢期、時間に余裕がないからが青年期、中年期、費用がかかるからは青年期、病気や身体上の理由のためは高齢者が高くなっていました。

60 今後の運動 (91)



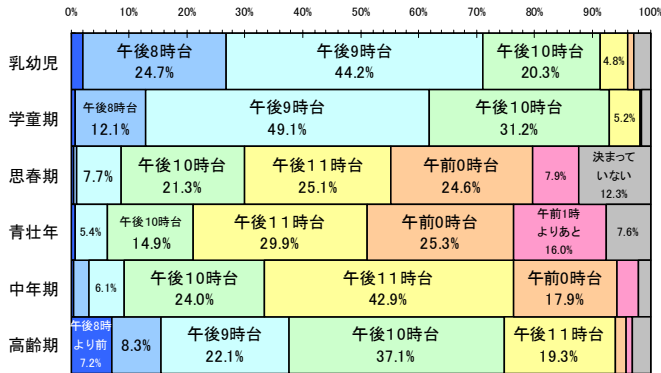
今後の運動は、年代が低いほど、もっとしたい人が多く、年代が上がるほど、特に考えていない人が多くなっていました。

61 運動の動機付け (92)

順位	学童期	順位	思春期	順位	青年期	順位	中年期	順位	高年齢期
1	いっしょにする友だち 52.1%	1	運動やスポーツをする時間 64.6%	1	運動やスポーツをする時間 53.0%	1	身近で気軽に運動やスポーツのできる場所 41.1%	1	身近で気軽に運動やスポーツのできる場所 31.8%
2	運動やスポーツのできる場所 51.7%	2	運動やスポーツのできる場所 63.1%	2	身近で気軽に運動やスポーツのできる場所 45.1%	2	運動やスポーツをする時間 40.9%	2	特に必要なし 30.7%
3	運動やスポーツをする時間 43.9%	3	いっしょにする友だち 58.5%	3	きっかけ 33.2%	3	一緒に楽しむ仲間 27.3%	3	一緒に楽しむ仲間 26.8%
4	きっかけ 15.6%	4	運動やスポーツにかかる費用の軽減 33.6%	4	一緒に楽しむ仲間 28.2%	4	運動やスポーツにかかる費用の軽減 24.5%	4	運動やスポーツをする時間 12.3%
5	特に必要なし 5.6%	5	その他 4.9%	5	運動やスポーツに関する情報 11.5%	5	特に必要なし 4.2%	5	健康上の理由で該当しない 11.5%
6	その他 3.8%	6	特に必要なし 4.4%	6	健康上の理由で該当しない 0.6%	6	運動やスポーツに関する情報 8.6%	6	運動やスポーツに関する情報 9.6%
						7	健康上の理由で該当しない 1.4%	7	運動やスポーツにかかる費用の軽減 7.7%
						8		8	その他 1.9%

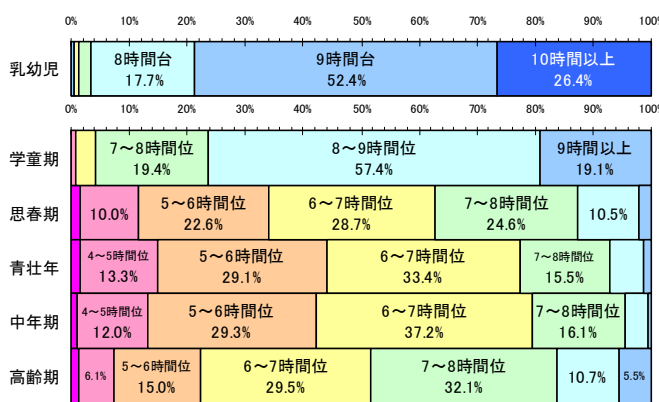
運動の動機付けでは、全般的に運動やスポーツのできる場所が上位でしたが、学童期では「いっしょにする友だち」、思春期、青年期では「運動やスポーツをする時間」が上位に挙げられていました。なお、高齢者では「特に必要なし」が2位に挙げられていました。

62 睡眠 就寝時間 (93)



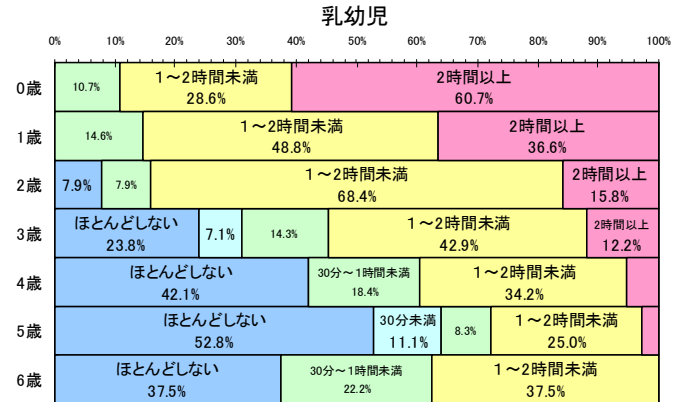
就寝時間は、青年期が最も遅く、その前後の年代では高い傾向を示しました。特に高齢者では午後8時より前に就寝するという極端に早い人もみられました。

63 睡眠時間 (94)



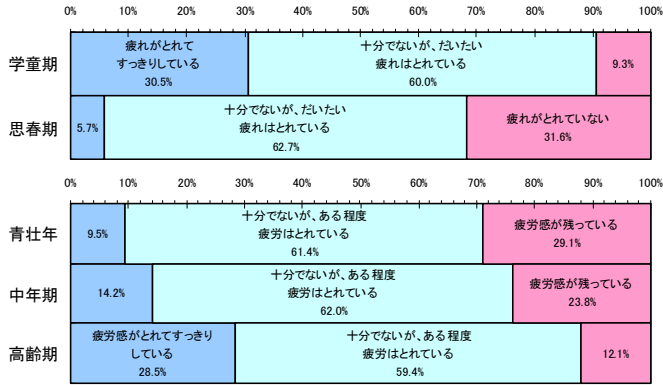
睡眠時間が最も少ないのは青年期で、その前後の年代では多い傾向を示しました。特に高齢者では多くなっていました。

64 昼寝時間 (95)



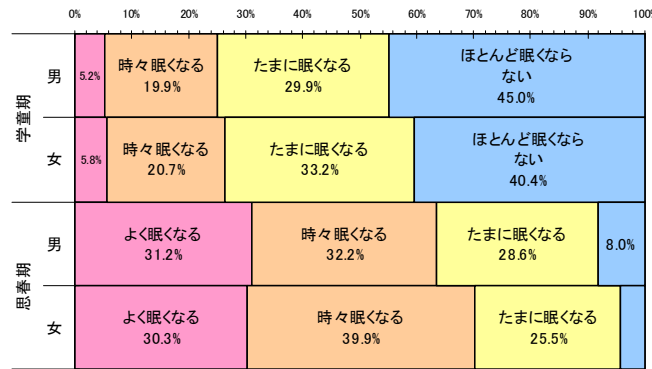
乳幼児の昼寝時間は、年齢が上がるほどほとんどしない子が多くなっていました。

65 目覚め (96)



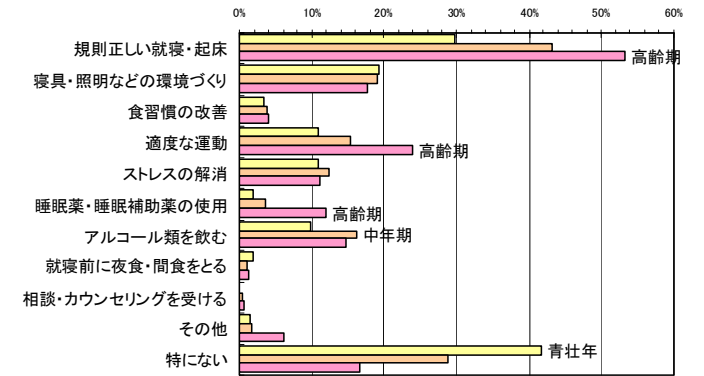
目覚めは、睡眠時間が長い学童期、高齢期で疲れが取れてすっきりしている人が多く、思春期、青年期で疲労感が残っている人が多くなっていました。

66 睡眠不足 (97)



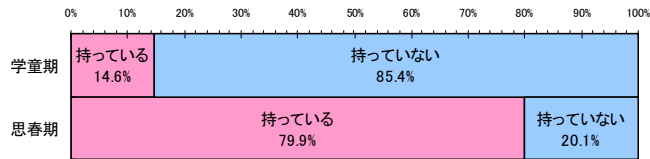
学童期ではほとんど眠くならない子が多く、思春期ではよく眠くなる子が多くなっていました。

67 睡眠対策 (98)



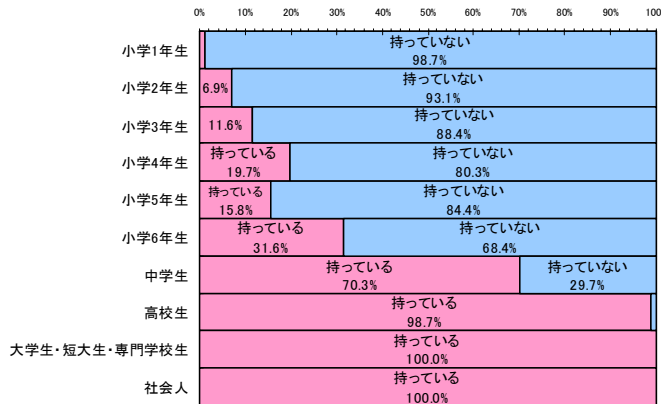
睡眠対策は、規則正しい就寝・起床、適度な運動、睡眠薬・睡眠補助薬の使用は高齢者、アルコール類を飲むのは中年期、特になしは青年期となっていました。

68 携帯電話有無 (99)



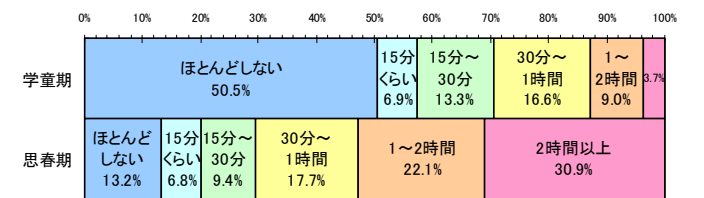
携帯電話は、学童期では持っている子が少なく、思春期では多くなっていました。

68 携帯電話有無 (100)



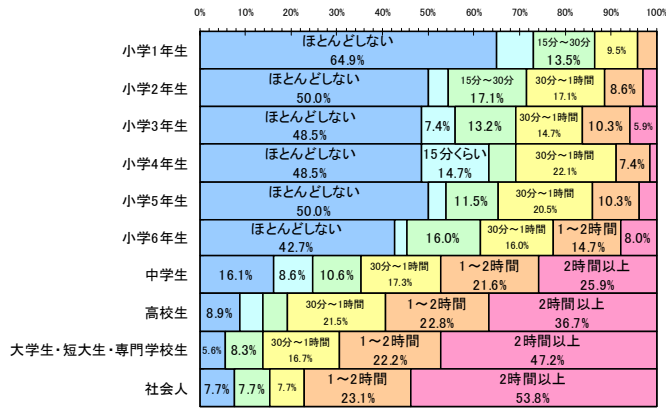
学年別にみると、学年が上がるほど携帯電話を持っている子が多く、中学で半数を超え、高校生では殆どの子が持っている状況でした。

69 電話・メール・インターネット時間 (101)



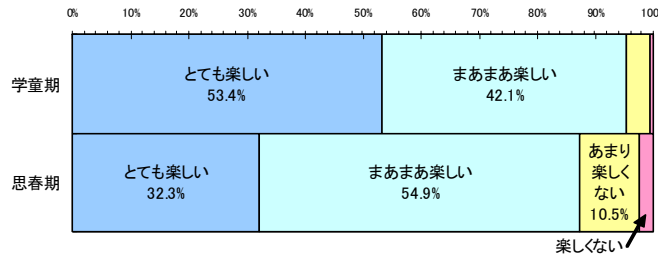
電話・メール・インターネットをする時間では、学童期では殆どしない子が半数、思春期では1時間以上が半数となっていました。

69 電話・メール・インターネット時間 (102)



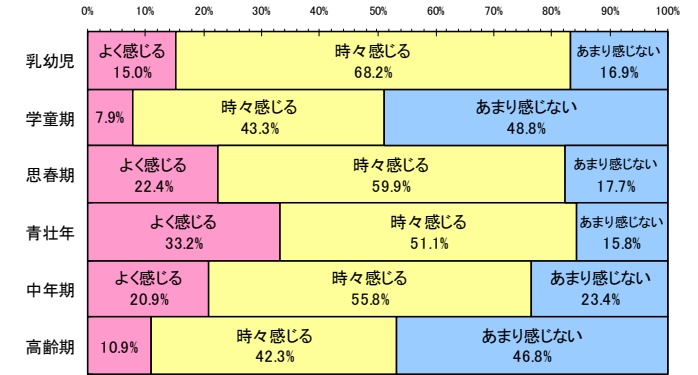
電話・メール・インターネットをする時間を学年別にみると、学年が上がるほど殆どしない子が減少し、長時間する子が増加している傾向が見られました。

精神保健
70 楽しい (103)



毎日がとても楽しい子は学童期に多く、思春期ではあまり楽しくない、楽しくない子が相対的に高くなっていました。

71 ストレス有無 (104)

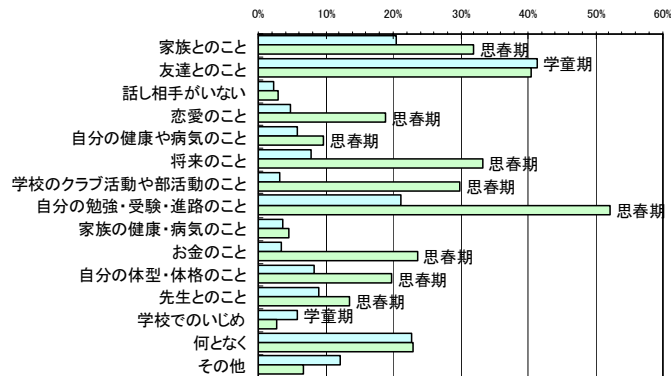


※乳幼児は、保育者ストレス

ストレスの有無では、よく感じる人は青年期で最も高くなっていました。一方あまり感じないのは、学童期、高齢期で高くなっていました。

72 ストレス原因 (105)

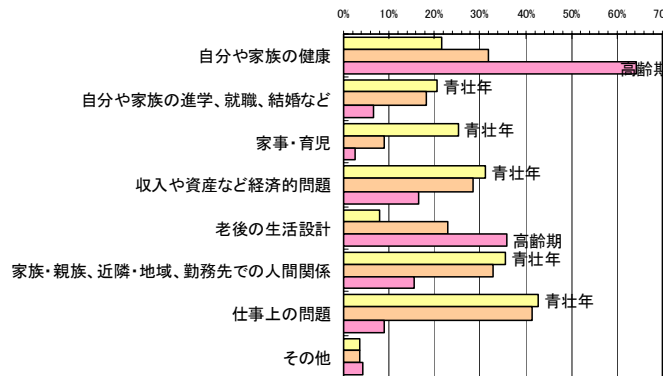
学童期・思春期



学童期と思春期のストレス原因では、全般的に思春期が高く、学童期が高いのは、学校でのいじめ程度でした。

72 ストレス原因 (106)

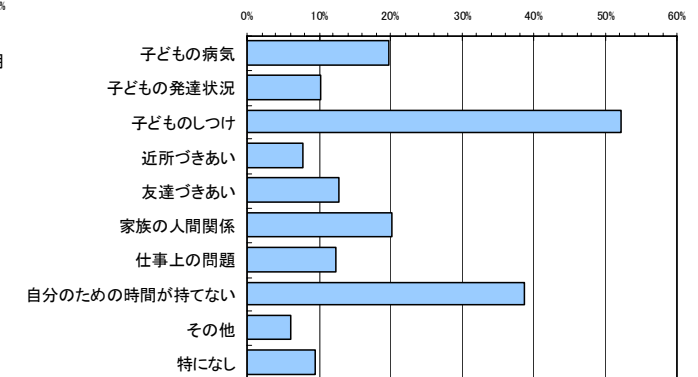
青年期・中年期・高齢期



青年期、中年期、高齢期のストレス原因では、全般的に青年期が高く、高齢期で高いのは、自分や家族の健康、老後の生活設計となっていました。

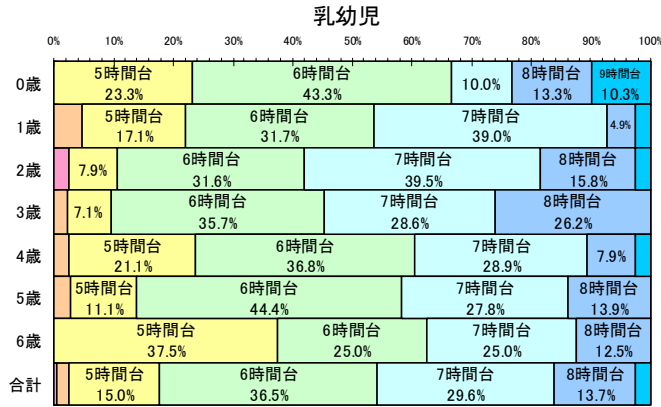
73 育児ストレス (107)

乳幼児



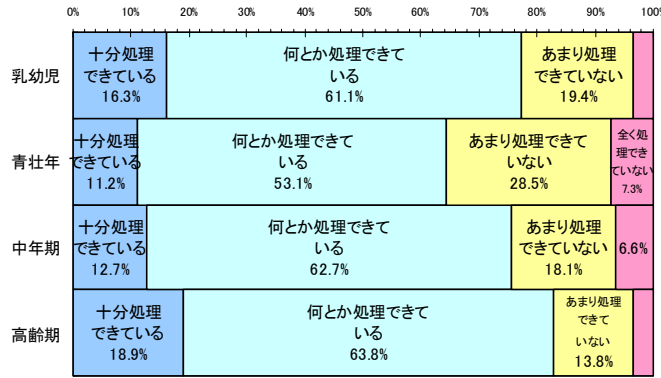
育児ストレスでは、子供のしつけ、自分のための時間が持てない、が高くなっていました。

74 保育者睡眠時間 (108)



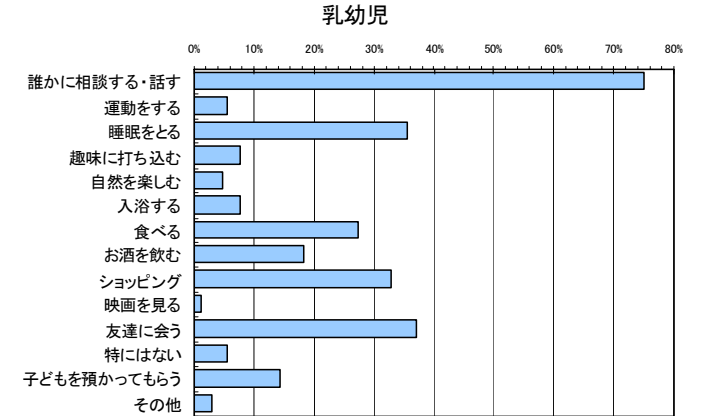
保育者の睡眠時間は、全般的にさほど短くなく、乳児ほど短くなるという傾向は見られませんでした。

75 ストレス処理 (109)



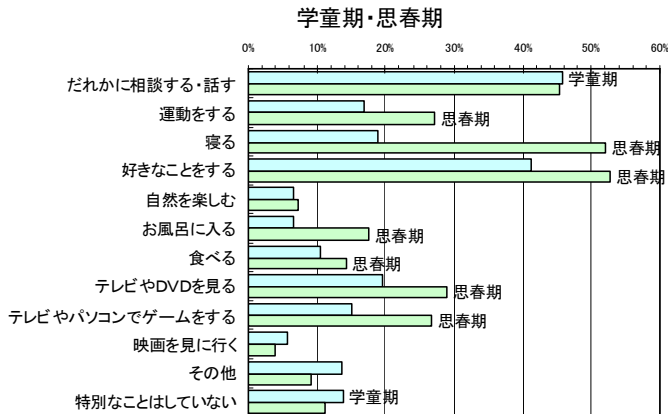
ストレス処理については、あまり処理できていない、全く処理できていないが最も高いのは青壮年で、その前後では低くなる傾向が見られました。

76 ストレス対策 (110)



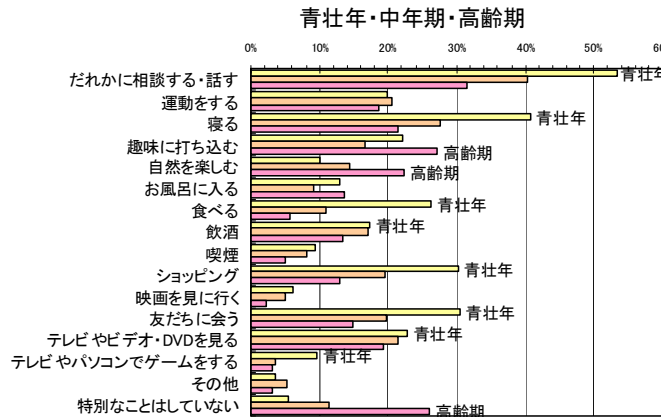
保育者のストレス対策では、誰かに相談する・話すが最も高く、友達に会う、睡眠をとる、ショッピング等も高くなっていました。

76 ストレス対策 (111)



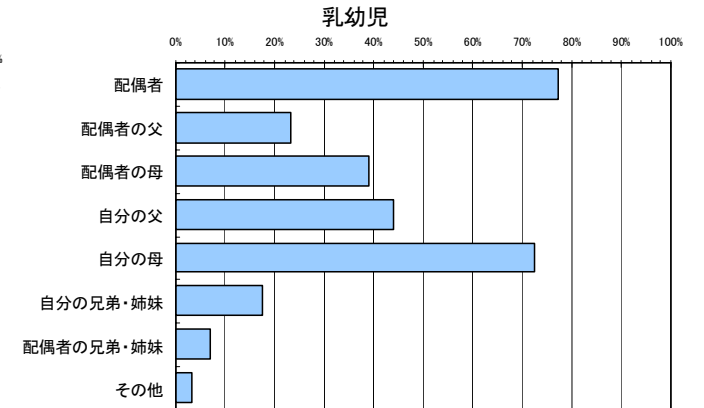
学童期、思春期のストレス対策では、全般的に思春期が高く、学童期は、だれかに相談する・話す、特別なことはしていない、が相対的に高くなっていました。

76 ストレス対策 (112)



青壮年、中年期、高齢期のストレス対策では、青壮年が全般的に高く、高齢期が高いのは、趣味に打ち込む、自然を楽しむ、特別なことはしていないなどでした。

77 子育て協力者 (113)

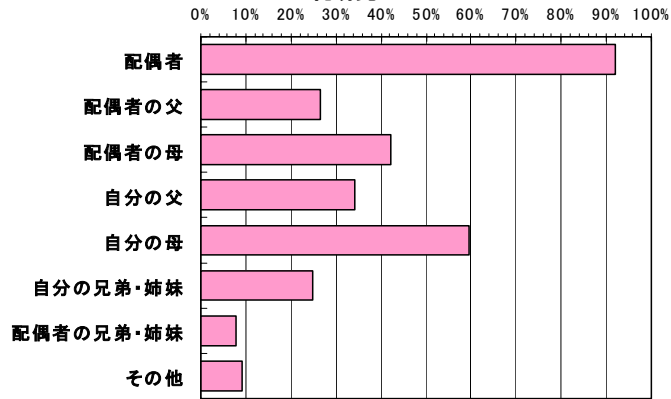


子育て協力者は、配偶者、自分の母、自分の父の順に高くなっていました。

77 子育て協力者

(114)

乳幼児 (参考) 清川村



子育て協力者について清川村の結果を見ると、配偶者が中井町よりかなり高いこと、自分の母の次に配偶者の母がくるなどの違いが見られました。

78 相談相手

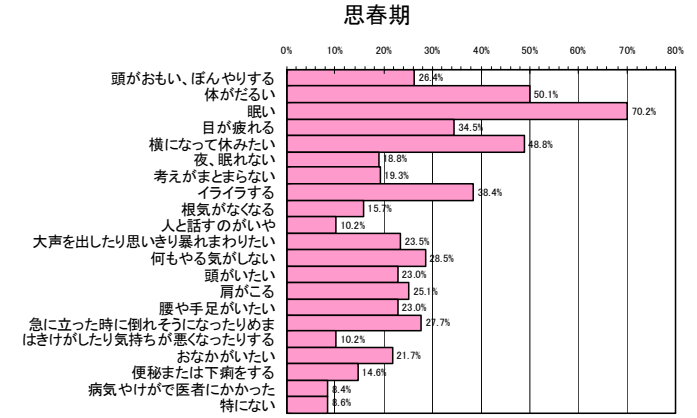
(115)

順位	乳幼児	学童期	思春期	青少年	中年期	高齢期
1	友人 72.3%	家族 80.0%	友だち 70.1%	友人 64.1%	家族 59.2%	家族 60.9%
2	配偶者 61.9%	友だち 42.3%	家族 48.1%	家族 61.9%	友人 45.1%	友人 31.7%
3	配偶者以外の家族 40.3%	学校の先生 16.2%	特いない 19.5%	職場の同僚・先輩・上司 25.7%	特いない 19.4%	特いない 21.4%
4	特いない 5.2%	特いない 10.1%	学校の先輩 9.9%	特いない 13.5%	職場の人 16.1%	医療機関 8.1%
5	特いない 4.8%	学校の先生 1.4%	学校の先生 9.1%	インターネットの相談サイトなど 1.4%	カウンセラー 3.5%	介護・福祉関係者 5.3%
6	インターネットの相談サイトなど 2.6%	その他 0.7%	お医者さん 1.8%	インターネットの相談サイトなど 1.4%	介護・福祉関係者 1.0%	職場の人 2.5%
7	医療機関 1.7%	お医者さん 0.5%	インターネットの相談サイトなど 1.8%	医療機関 1.1%	インターネットの相談サイトなど 0.5%	その他 1.9%
8	行政(保健師等) 1.3%	カウンセラー 0.0%	学校の先生 1.8%	学校の先生 0.8%	学校の先生 0.5%	県・町の職員 0.6%
			学校カウンセラー 1.6%	職場や学校のカウンセラー 0.6%	その他 0.5%	カウンセラー 0.0%
				県・町の職員 0.6%	医療機関 0.0%	
				介護・福祉関係者 0.3%		

相談相手は、家族と友人が上位でしたが、乳幼児、思春期、青少年では家族より友人が上位になっていました。

79 精神症状

(116)

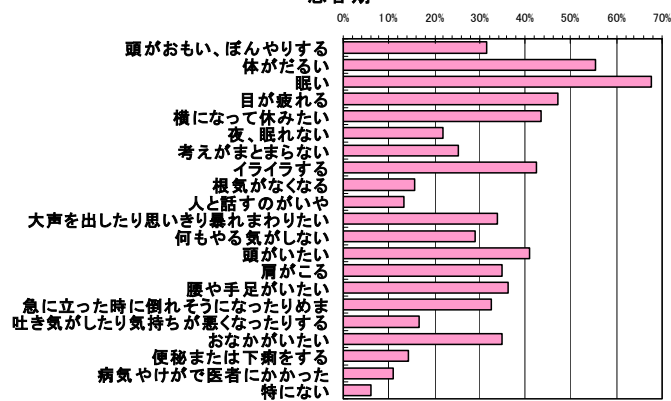


思春期の精神症状としては、眠い、体がだるい、横になって休みたいなどが多く、精神症状というより睡眠不足によるものも多いと推定されます。

79 精神症状

(117)

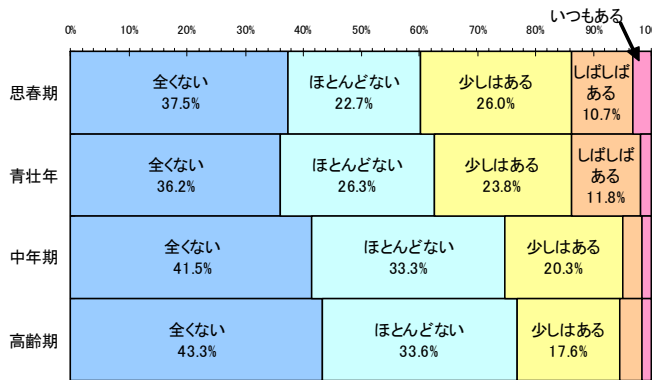
思春期 (参考) 清川村



ちなみに、清川村の調査結果でも同様の傾向がうかがえました。

80 憂鬱

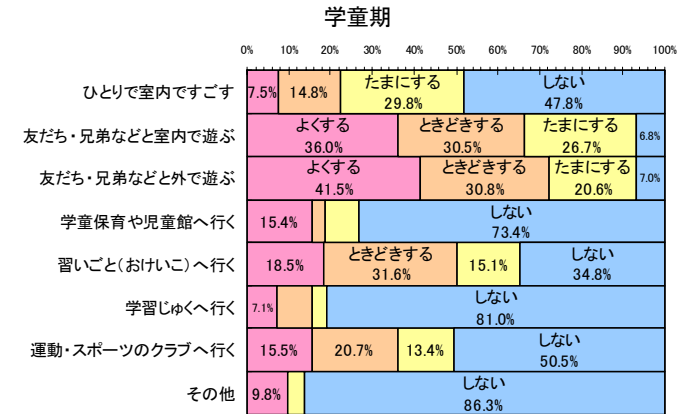
(118)



憂鬱は全般的に全くない、殆どないが多かったのですが、思春期、青少年では、少しはある、しばしばある、いつもあるなども高めになっていました。

81~88 放課後の過ごし方

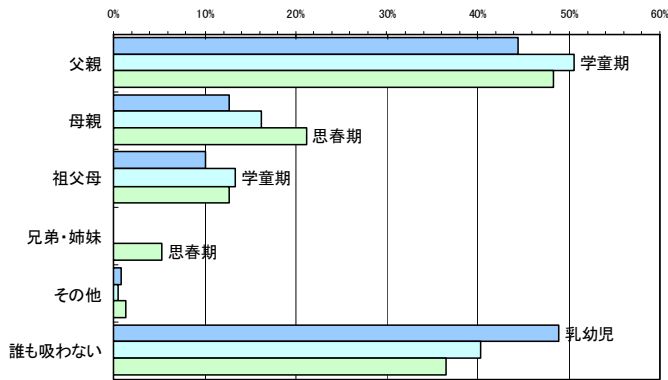
(119)



放課後の過ごし方では、友だち・兄弟などと室内／外で遊ぶが多くなっていました。また、習い事(おけいこ)、運動・スポーツのクラブも挙げられていました。

89 喫煙 家族の喫煙

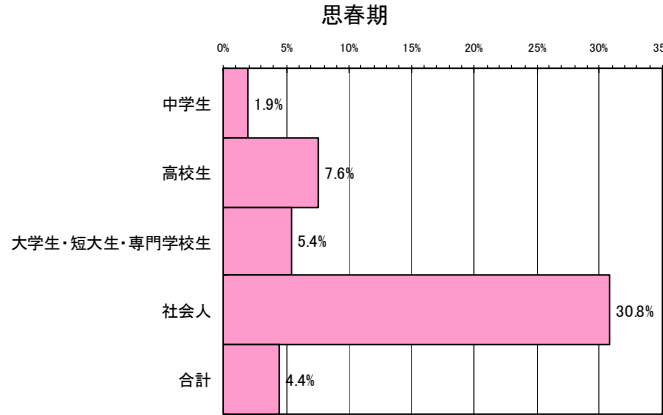
(120)



家族の喫煙では、乳幼児は誰も吸わない、学童期は父親、祖父母、思春期だと母親、兄弟・姉妹となっており、年齢が上がると次第に周囲の喫煙が増える傾向がうかがえました。

90 喫煙経験

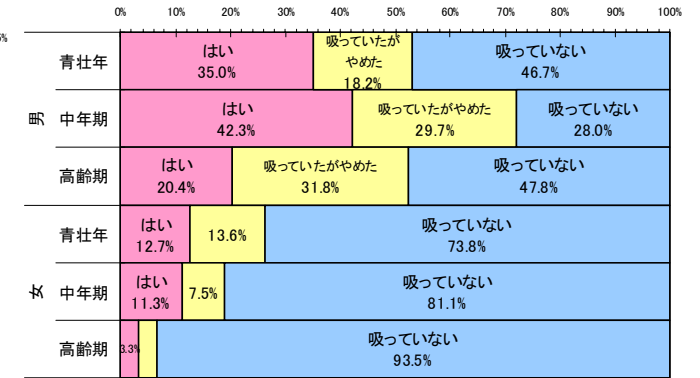
(121)



思春期の喫煙経験は合計では4.4%と低かったのですが、社会人は30.8%と高くなっていました。

91 喫煙状況

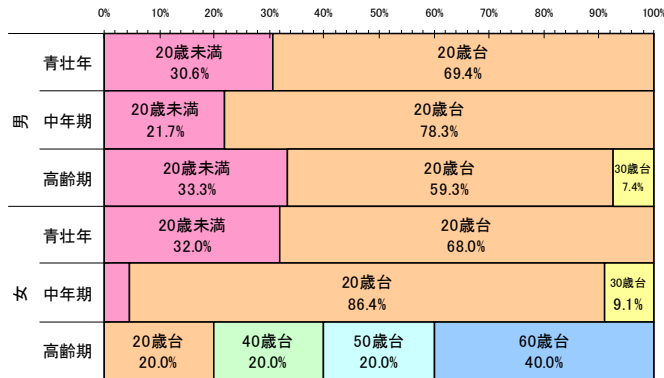
(122)



喫煙状況は、男性では中年期が最も喫煙者が多く、女性では青壮年が高くなっていました。

92 喫煙状況 何歳頃から

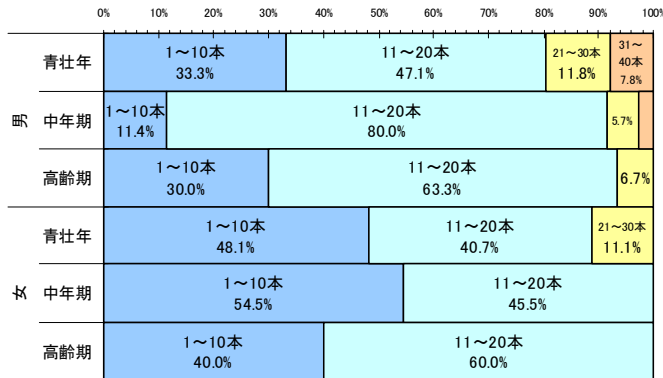
(123)



何歳から喫煙を始めたかでは、全般的に20歳台が最も多く、20歳未満も高くなっていました。一方、高齢期の女性では、遅く喫煙を開始した状況がうかがえます。

93 喫煙本数

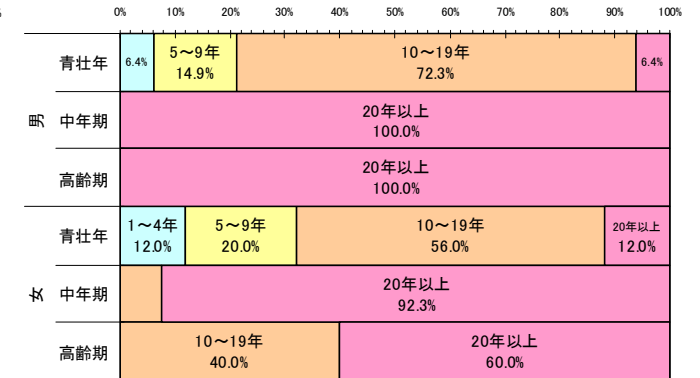
(124)



喫煙本数は、男性は11~20本が多く、21本以上もありますが、女性は1~10本が多くなっています。

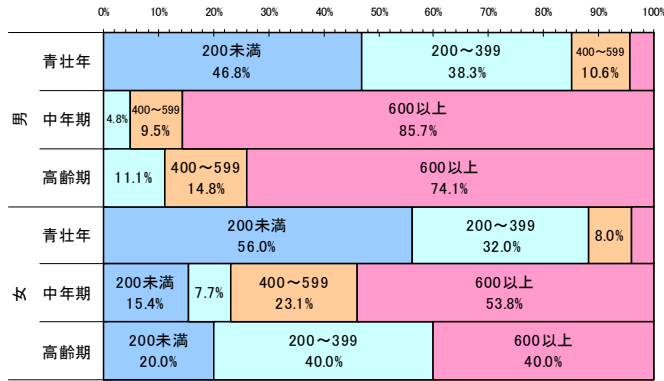
94 喫煙期間

(125)



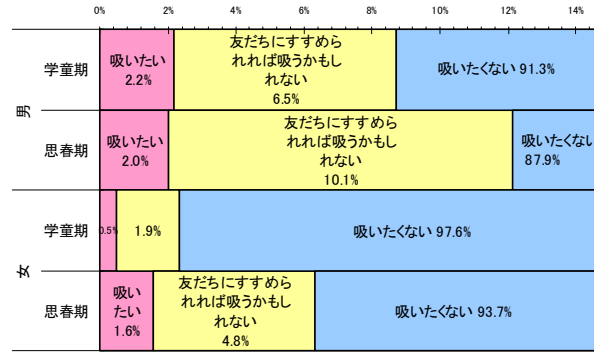
喫煙期間は、男性は青壮年は10~19年が多くなっていますが、中年期以上では20年以上となっています。女性は、高齢期でも10~19年が4割程度みられます。

95 プリンクマン係数 (126)



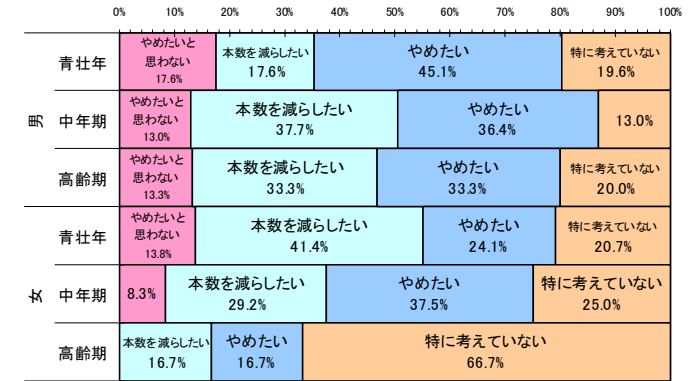
プリंकマン係数とは、喫煙本数と喫煙年数を掛けたもので、1日20本を20年間続けると、プリंकマン係数400となります。400を超えると、禁煙しても完全にリスクゼロには戻らないと言われます。ということで、中年期以降の男性は殆どが400以上となっています。高い禁煙効果を狙うには、青年期の男性と、女性が対象となるでしょう。

96 喫煙意欲 (127)



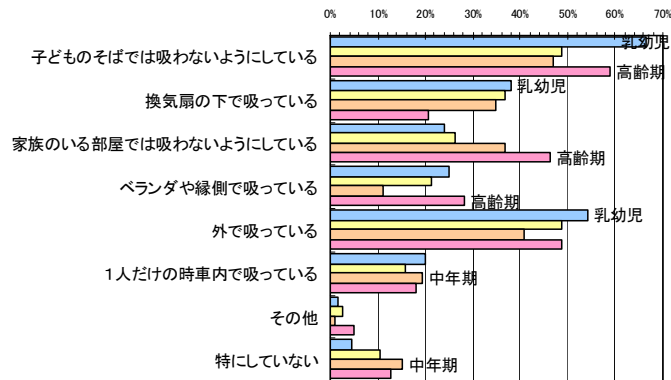
学童期と思春期に対し、将来たばこを吸いたいという質問に対しては、積極的に吸いたいという回答は少なかったのですが、友だちにすすめられれば吸うかもしれないという回答が、特に男子で高く挙がっていました。

97 禁煙意思 (128)



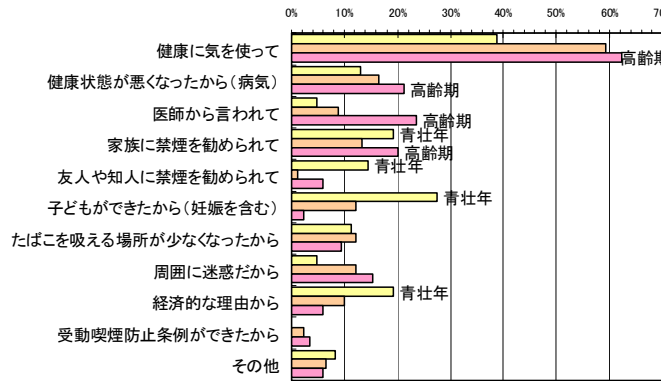
喫煙者の禁煙意思を聞くと、全体的にやめたい、本数を減らしたいという回答が多く挙がりました。一方で、やめたいと思わない、特に考えていないという答えも根強くありました。

98 喫煙場所 (129)



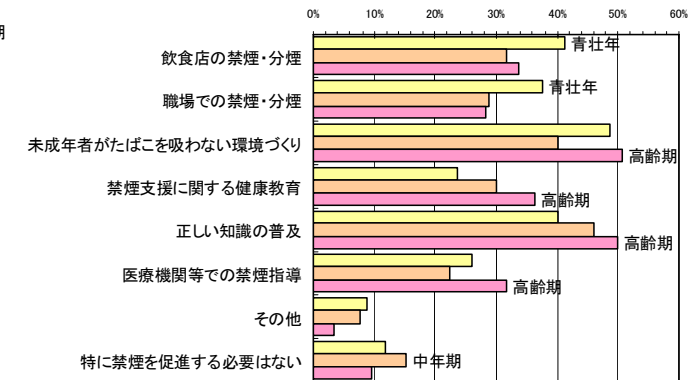
喫煙場所については、乳幼児、高齢期で子どものそばでは吸わないようになっているなどの配慮が見られました。しかしながら、家の中、あるいはベランダや縁側では煙の流入を防ぐことはできないので、不完全です。不完全な方法が多いということが分かりましたので、要注意です。

99 禁煙理由 (130)



禁煙理由は、高齢期では健康に気を使って、健康状態が悪くなったから、医師から言われて、家族に禁煙を勧められてなどが多くなっています。一方、青年期では子どもができたから、友人や知人に禁煙を勧められて、経済的な理由からなど外的要因が働くことが分かります。

100 禁煙促進 (131)

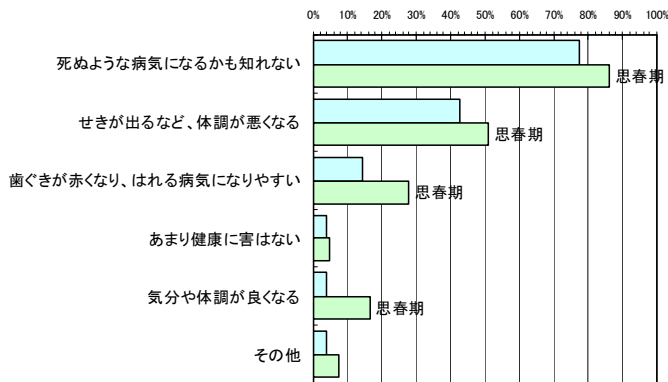


禁煙促進策では、青年期では飲食店の禁煙・分煙、職場での禁煙・分煙が多く、外的介入が効くことが推定できます。高齢者は未成年者がたばこを吸わない環境づくり、禁煙支援に関する健康教育、正しい知識の普及、医療機関での禁煙指導などが高くなっており、自分のこととしてではなく、他人事としてとらえています。一方中年は、特に禁煙を促進する必要はない、と無責任な意見で高くなっています。

101 喫煙影響知識

(132)

学童期・思春期

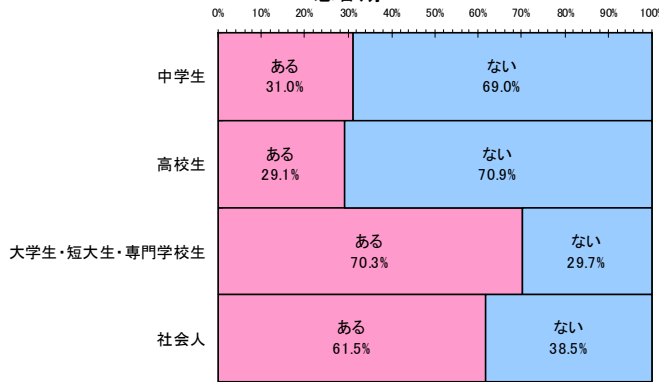


喫煙影響知識については、全般的に思春期の方が高くなっています。しかしながら、気分や体調がよくなる、という選択肢も高くなっています。

飲酒
102 飲酒経験

(133)

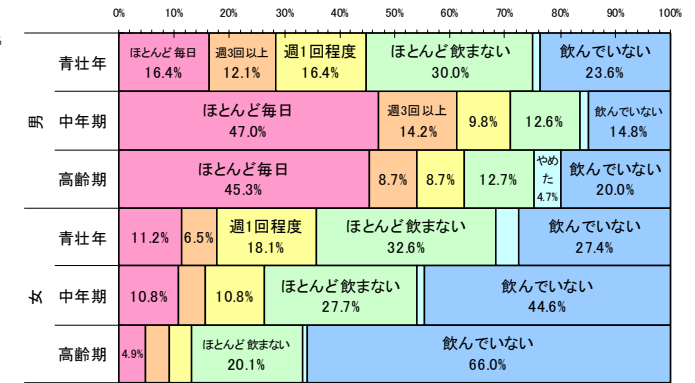
思春期



飲酒については、喫煙よりはるかに高い結果となっています。特に、大学生、社会人では半数以上が経験しているという回答でした。飲酒については、喫煙より社会的拘束力が弱いため、素直に答えやすいという側面もあると思われます。

103 飲酒状況

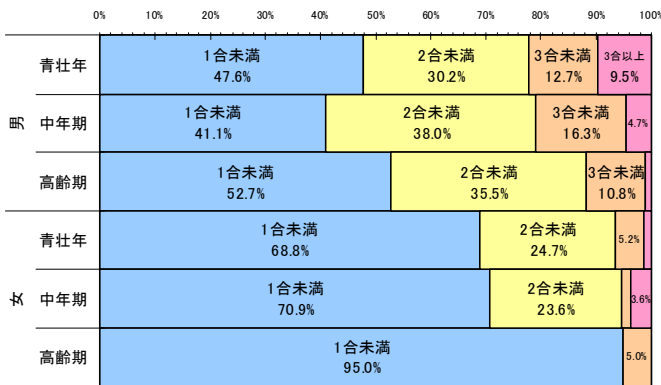
(134)



男性のほうが女性より飲む人が多くなっています。特に中年期、高齢期の男性は半分近くがほとんど毎日飲むと答えています。男性の場合、青壮年が相対的に低いのですが、女性の場合は他の年代より、青壮年のほうが飲む人が高くなっています。

104 飲酒量

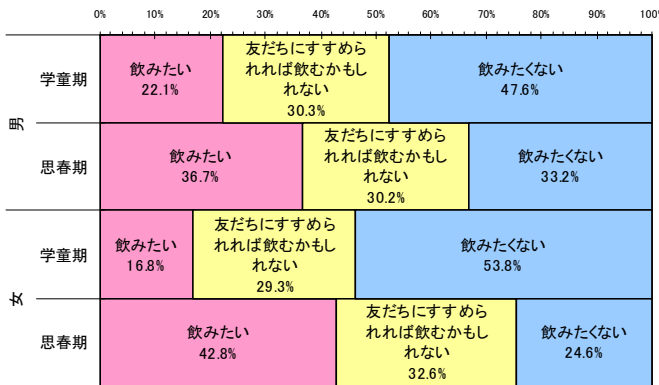
(135)



飲酒量は、女性は大半が1合未満に対し、男性は1合以上が多くなっています。適量は1合未満ですので、男性は飲みすぎが多い、と言えます。

105 飲酒意欲

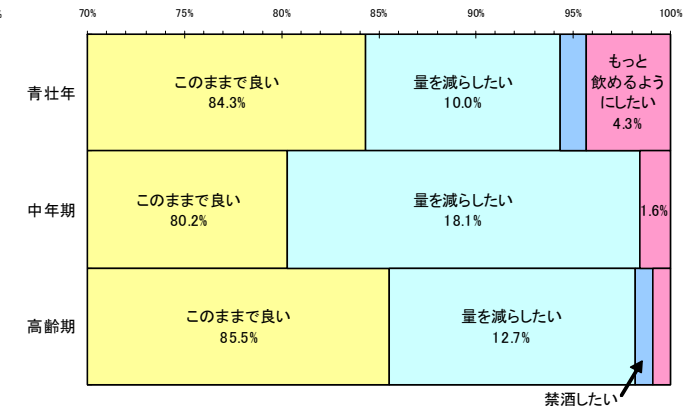
(136)



飲酒意欲については、飲みたいが多く、特に思春期では高くなっており、男性より女性のほうが高い傾向がうかがえます。

106 禁酒、節酒意思

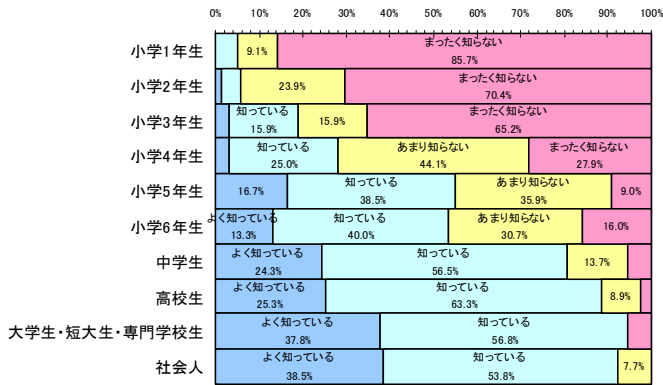
(137)



禁酒、節酒意思はない人が多く、8割以上の方がこのままで良いと回答しています(グラフは左端が70%になっています)。禁酒したい人は殆どなく、量を減らしたい人が1割程度いるだけです。

薬物
107 薬物知識

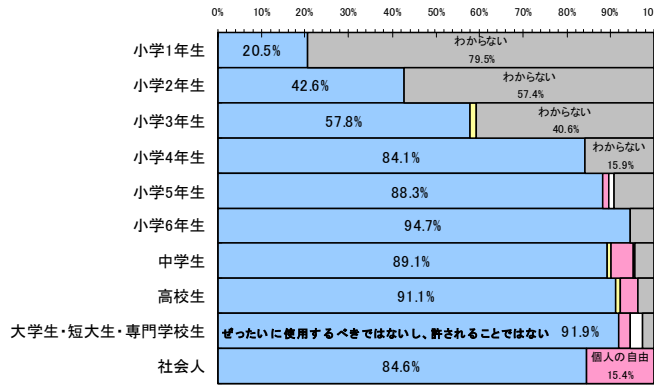
(138)



薬物知識については小学校低学年ほどまったく知らない人が多く、年齢が上がるほどよく知っている、知っているが多くなっています。

108 薬物意識

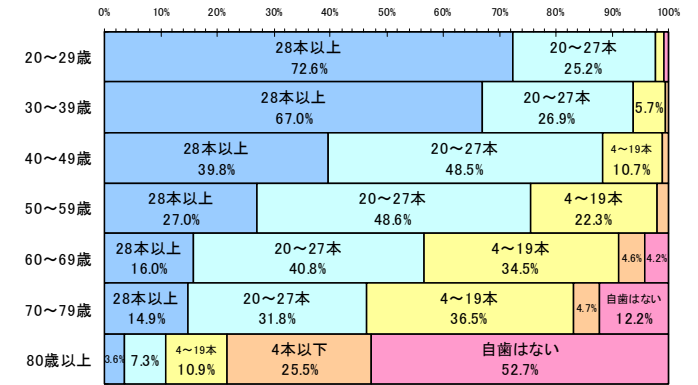
(139)



薬物に対する意識についても、小学校低学年ではわからないとの回答が多く、年齢が上がるほど、「ぜったいに使用するべきではないし、許されることではない」の回答が高くなっています。しかし、社会人では「個人の自由」との回答がわずかにあり、懸念されます。

109 自歯本数

(140)

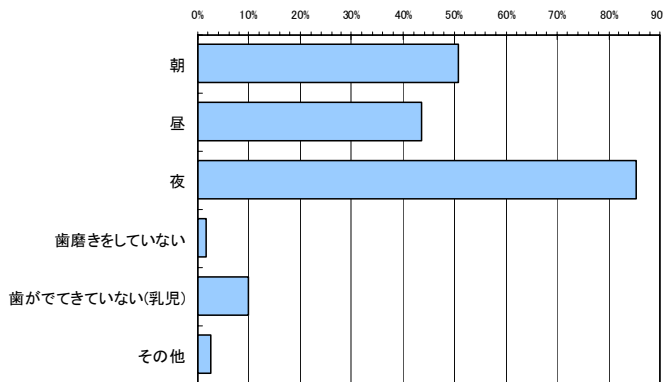


自歯本数は、年齢が上がるほど28本以上が少なくなり、80歳以上では「自歯はない」人が半数を超えます。年齢が上がるのと着々と歯を失っている状況がうかがえ、介入検討をすべきでしょう。

110 歯磨き習慣

(141)

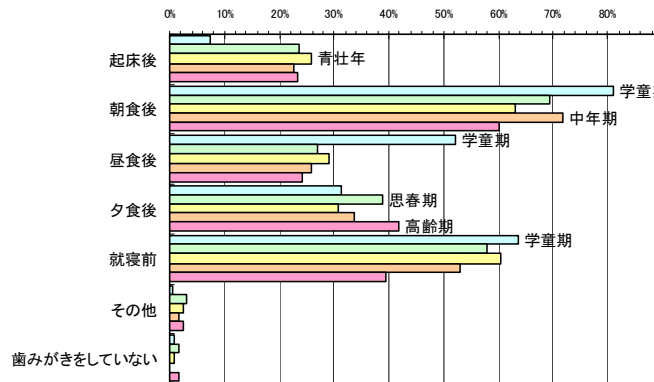
乳幼児



乳幼児では、夜歯を磨く人が多いようです。

110 歯磨き習慣

(142)



学童期から高齢期では、朝食後が全体的に高く、ついで就寝前が高くなっています。学童期では、昼食後も高くなっています。

110 歯磨き習慣

(143)

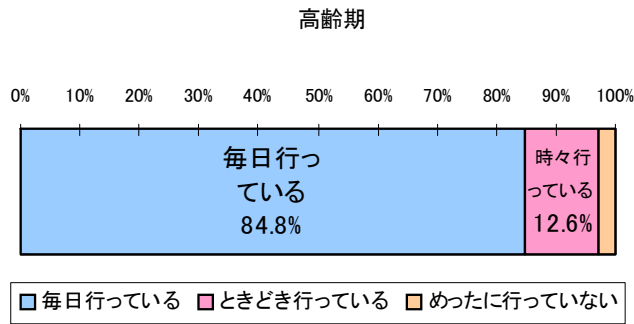
歯磨きをしていない人の割合



歯磨きをしていないと回答した人は少ないのですが、約1%前後います。しかしながら、回答者が少ないため、何らかの傾向があるかは判明しませんでした。

111 入れ歯洗浄

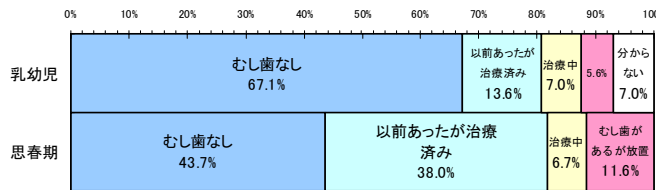
(144)



高齢者では、入れ歯の洗浄を毎日行っている人が多いようです。

112 虫歯状況

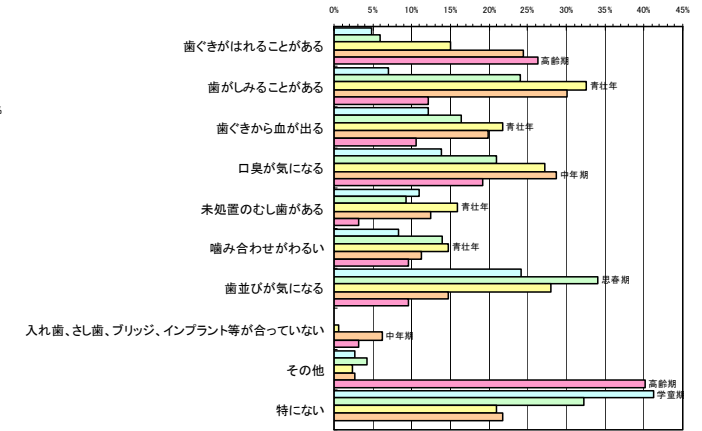
(145)



虫歯の状況では、乳幼児ではむし歯なしが多いのですが、思春期では半数以下になっています。さらに、虫歯があるが放置している人が1割います。

113 歯の症状

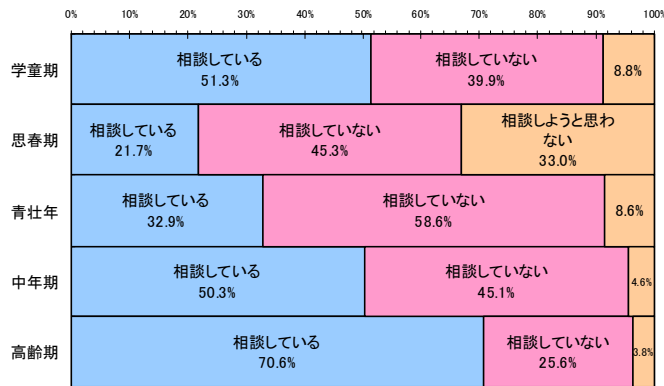
(146)



歯の症状では、青壮年で、歯がしみることもある、歯ぐきから血が出る、未処置のむし歯がある、噛み合わせが悪いなどの症状が高くなっています。思春期では、歯並びが気になるが高くなっています。

114 歯の相談

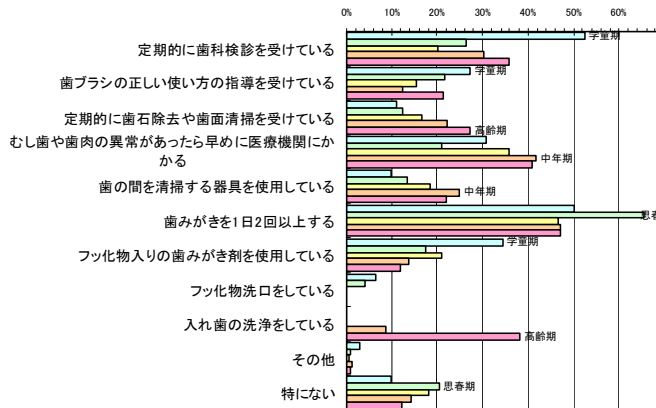
(147)



歯の相談をしているかどうかでは、相談している人は思春期が最も低く、相談していない、相談しようと思わないが高くなっています。

115 歯の健康維持

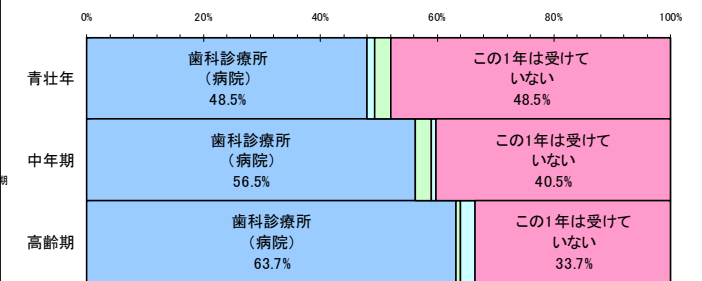
(148)



歯の健康維持では、学童期は、定期的に歯科検診を受けている、歯ブラシの正しい使い方の指導を受けている、フッ化物入りの歯磨き剤を使用しているなどが高くなっています。中年期では、むし歯や歯肉の異常があったら早めに医療機関にかかる、歯の間を清掃する器具を使用しているなどが高い。高齢期は、入れ歯の洗浄をしているが高い。一方思春期は、歯磨きを1日2回以上するが高いが、「特にない」も高い。

116 歯科検診受診場所

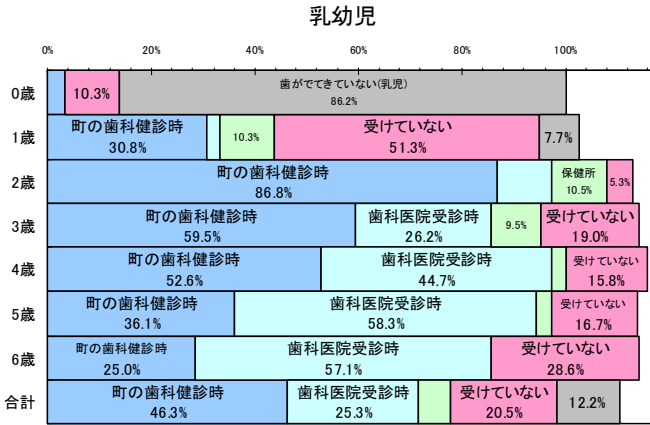
(149)



歯科検診受診場所は、年齢が上がるほど受診が高く、青壮年では半数近くが、この1年は受けていないと回答しています。

117 フッ化物塗布

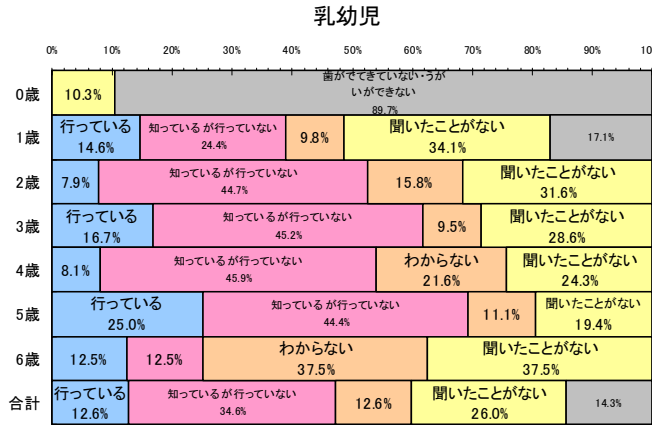
(150)



乳幼児のフッ化物塗布は、町の歯科健診時、歯科医院受診時などが高くなっています。

118 フッ化物洗口

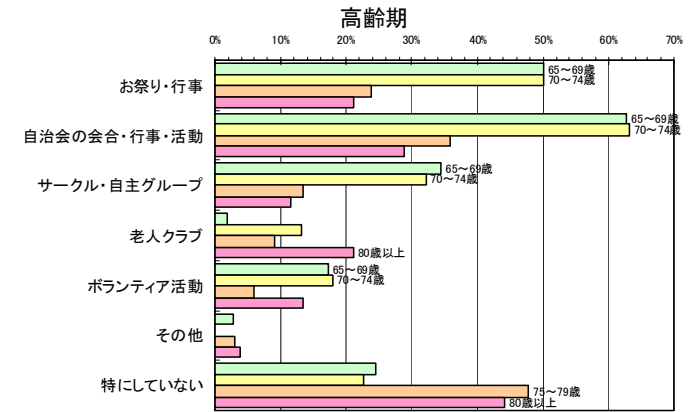
(151)



フッ化物洗口は、全般的に知っているが行っていないが高くなっています。

健康対策
119 社会活動参加

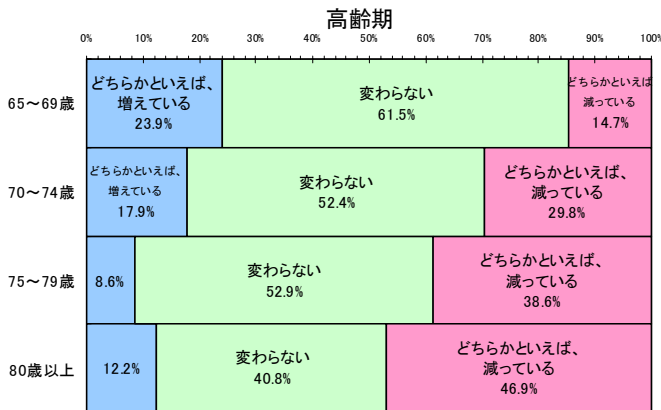
(152)



高齢期の社会活動参加は、65歳～74歳では、お祭り・行事、自治会の会合・行事・活動、サークル・自主グループ、ボランティア活動が高い。75歳以上では全般的に低く、「特にしていない」が高い。なお、老人クラブは80歳以上が高く、高齢者の受け皿としての拡充が望まれます。

120 1年前と比べた外出の回数

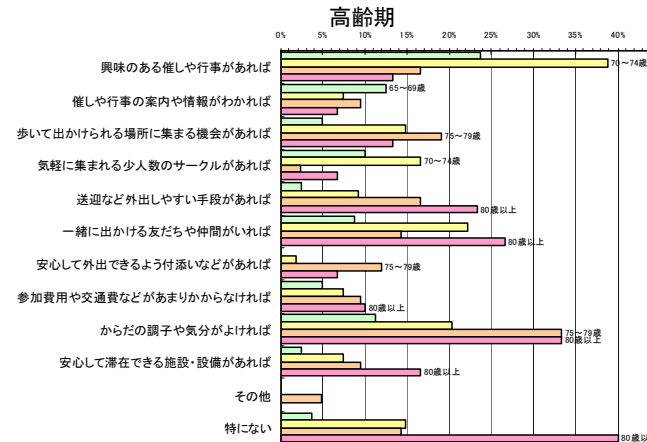
(153)



1年前と比べた外出の回数は、年齢が上がるにつれ、「どちらかといえば、増えている」が少なくなり、「どちらかといえば、減っている」が多くなっています。

121 外出増加の条件

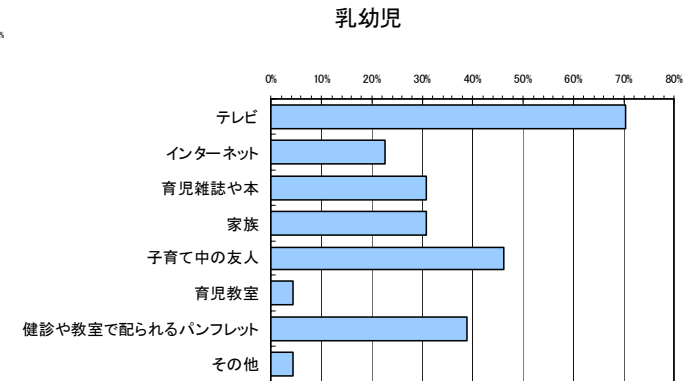
(154)



外出増加の条件は、65～69歳では、催しや行事の案内や情報があれば高い。70～74歳は、興味のある催しや行事があれば、気軽に集まれるサークルがあれば高い。75～79歳では、歩いて出かける場所、付き添い、からだの調子がよければ高い。80歳以上では、送迎、一緒に出かける友達、費用がかからないなどが高く、「特にない」も高くなっています。

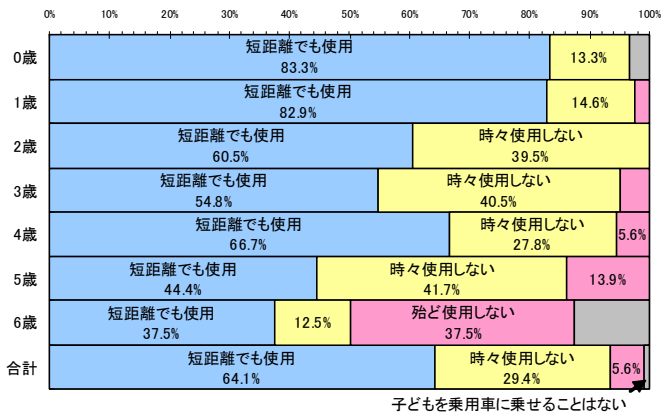
122 事故予防情報源

(155)



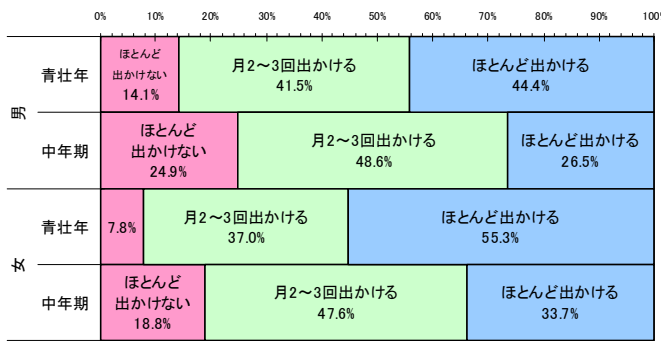
乳幼児の事故予防情報源は、テレビ、子育て中の友人、健診や教室で配られるパンフレットなどが高く、インターネットが意外にさほど高くないようです。

123 チャイルドシート使用状況 (156)



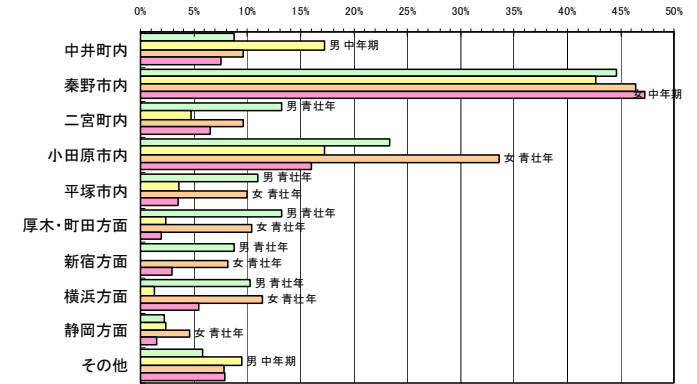
チャイルドシートの使用は年齢が低いほど、「短距離でも使用」が高く、年齢が上がるとあまり使用していないようです。

124 休日の外出 (157)



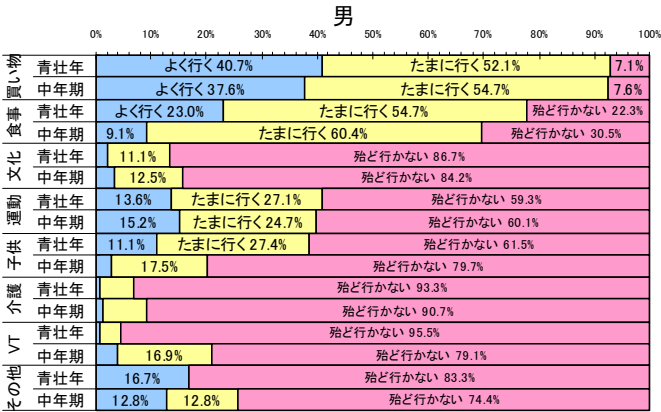
休日の外出は、男性のほうが女性よりでかけない傾向があります。

125 休日の外出先 (158)



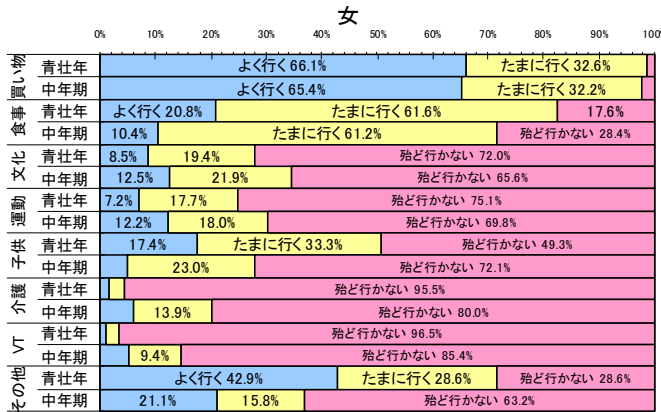
青壮年は男女とも比較的遠くに出かける傾向が見られます。しかし、中年期の男性は中井町内が高くなっています。

126~133 休日の外出頻度 (159)



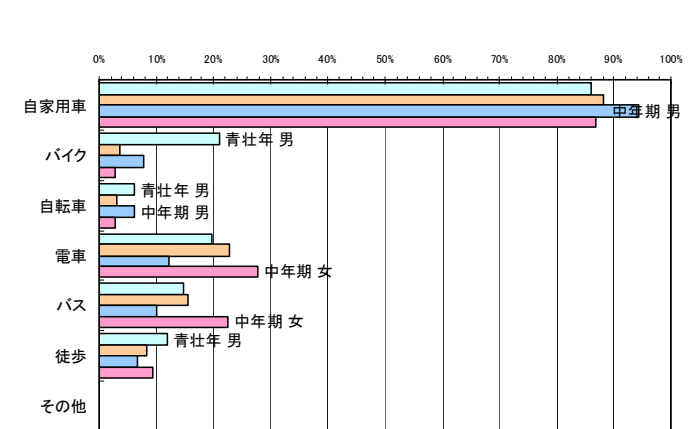
男性の場合、買い物、食事、運動に行くことが相対的に高くなっています。

126~133 休日の外出頻度 (160)



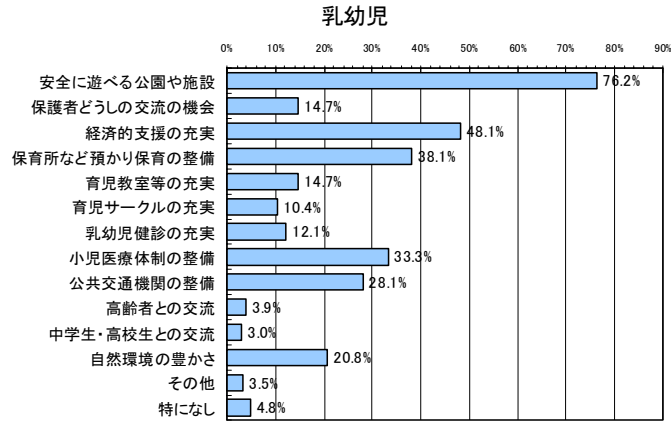
女性の場合は、全般的に男性より外出頻度が高い傾向を示しています。

134 外出手段 (161)



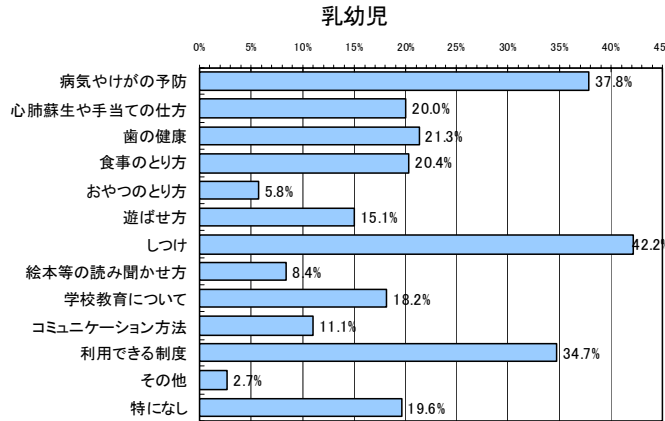
外出手段は、どの年代も自家用車が圧倒的に高くなっています。一方で、青壮年・男性は、バイク、自転車、徒歩も高く、相対的に近場に出かける傾向を示しています。

135 子育て支援要望 (162)



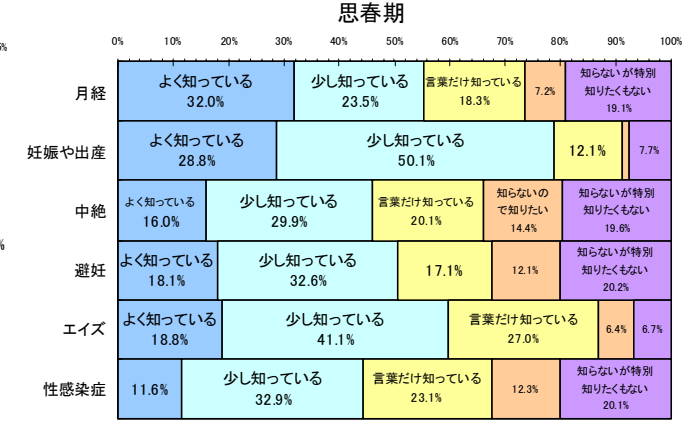
子育て支援要望としては、安全に遊べる公園や施設、経済的支援の充実、保育所など預かり保育の整備、小児医療体制の整備、公共交通機関の整備などが高くなっています。

136 子育て情報要望 (163)



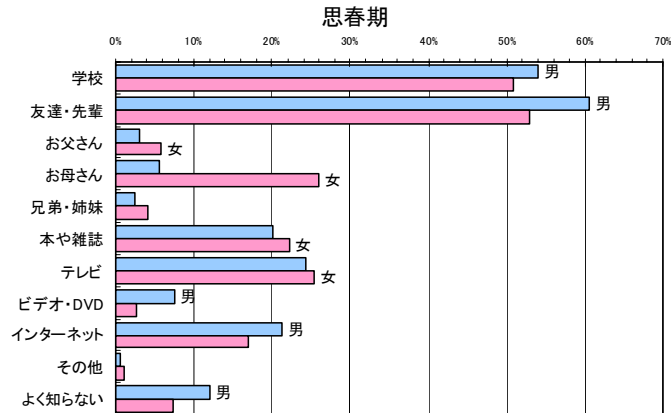
子育て情報の要望では、しつけ、病気やけがの予防、利用できる制度などが高くなっています。

137~142 性知識 (164)



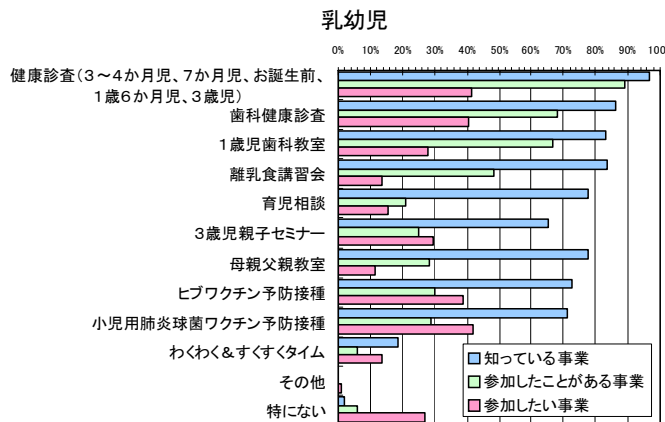
思春期の性知識では、全般的に「よく知っている」がさほど高くない傾向にあり、「知らないが特別知りたくもない」もやや高くなっています。

143 性知識源泉 (165)



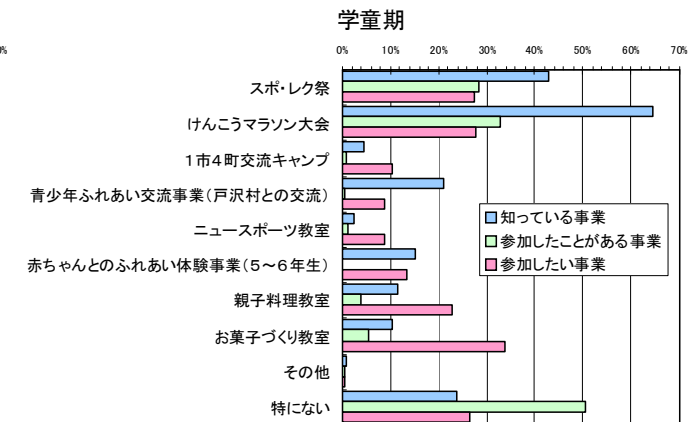
性知識源泉は、女子はお父さん、お母さん、本や雑誌、テレビなどが高くなっていますが、男子は学校、友達・先輩、ビデオ・DVD、インターネット、よく知らないなどが高くなっています。特に、お父さん、お母さんが低く、男子に対しては家庭教育がされていない状況がうかがえます。

144~146 中井町の事業 (166)



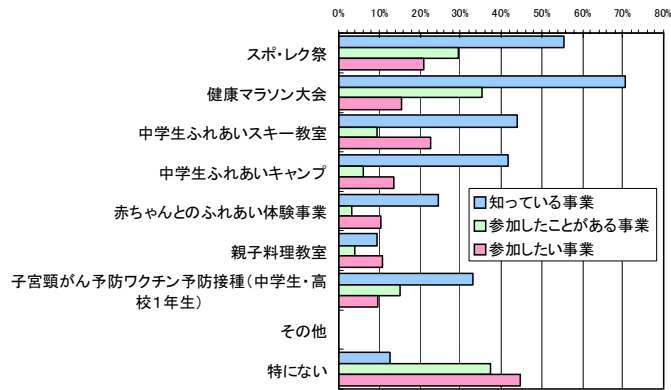
中井町の事業について、乳幼児では、全般的に認知度が高く、参加したことがある事業も多くなっています。しかし、今後参加したい事業は最大4割程度となっています。工夫が望まれます。

144~146 中井町の事業 (167)



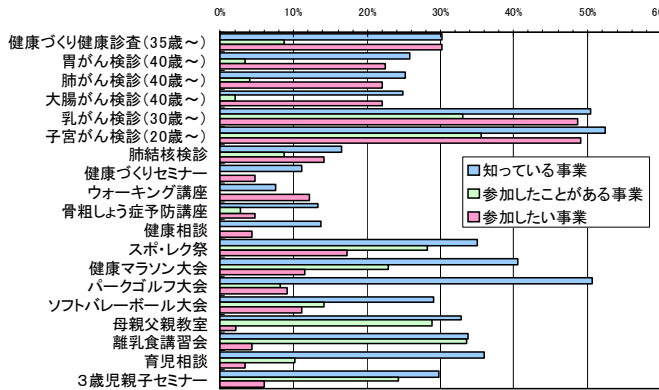
学童期では、スポ・レク祭、けんこうマラソン以外は認知度があまり高くありません。しかしながら、参加したい事業は、お菓子づくり教室、親子料理教室などが高く、「知らなかったが参加したい」という前向きな意欲が感じられます。

思春期



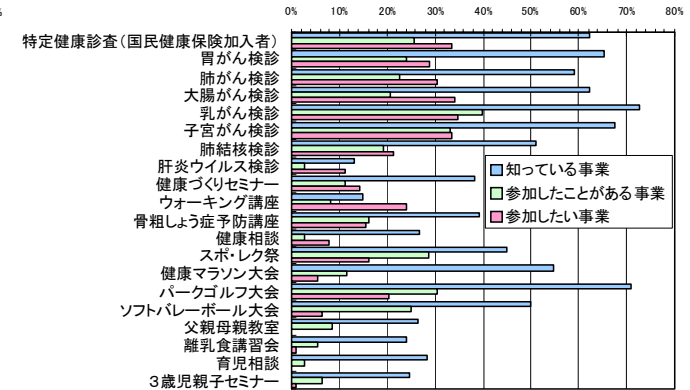
思春期では、全般的に認知度は高いのだが、今後参加したいという意識が低く、「特になし」が高いのが問題です。運営の工夫が望まれます。

青壮年



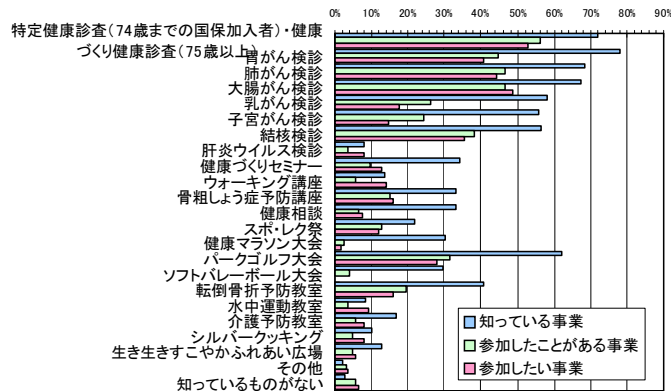
青壮年では、健診は今後参加したいが、その他は知っているがあまり参加したくないという意識が表れています。健診は切実だが、その他は切実ではないという判断がされている可能性があり、より魅力度の高い事業の構築が課題となります。

中年期

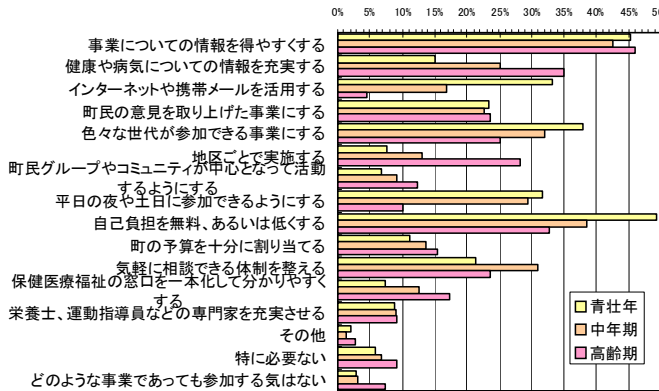


中年期では、知っているがあまり参加したくないという意識が顕著です。事業が中年期のニーズに合致していない可能性がありますので、再検討が必要です。

高齢期



健診関係は今後も参加したいが、他の事業は参加意欲にムラがあります。高齢期向けの事業が挙がっており、ニーズギャップの可能性が低いとすると、マンネリ化している可能性がありますので、リフレッシュが必要かもしれません。



事業への参加促進では、情報入手容易性、自己負担の無料低額化、健康情報の充実、多世代の交流などが高くなっています。

調査結果を活用して
素晴らしい計画を
つくみましょう

